

斯氏農書

後篇

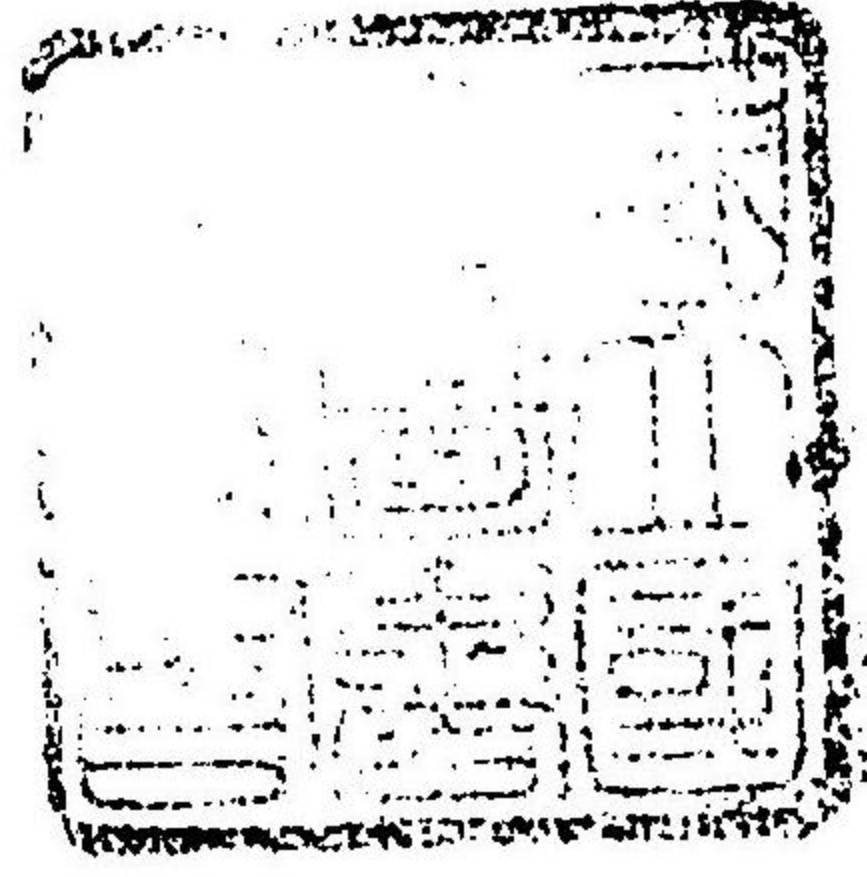
五十五

610.1

CS83p

0





275715

斯氏農書卷之五十五

岡田好樹 閱

明石春作 譯

佃戸ノ入揚ヲ論ス

第三千二百五十七章 蕪格蘭ニ於テ借受ノ農場ニ入  
ル通常ノ時期ハ「ウヰットソンデイ」及ヒ「マルチンマス」又  
ハ作物全ク土地ヲ離ル、時ニアリ此入場ノ時期ハ各  
種農ノ佃戸一般ニ便宜ナルモノニアラス「ウヰットソン  
デイ」ニ家屋及ヒ草地ヲ受取レハ混同農ノ佃戸ニ便利  
ナリ之レ冬月其畜類ニ給スヘキ蕪菁ヲ播種レ且秋播  
小麥ノ為メ土地ヲ耨耜スルヲ得レハナリ若シ全ク作



物ノ土地ヲ離レタル上ニテ入場セハ其畜類ニ與フベ  
キ蕪菁ナクシテ舊佃戸退去ノ節農場ニ有スル作物ヲ  
其農場ニ於テ買取ルカ或ハ他處ヨリ之ヲ購求セサル  
可ラス<sup>1</sup>ウヰットソングイニ於テ新入ノ佃戸ハ舊佃戸ノ  
作物尚ホ生スルノ土地ヲ受取ル能ハサレハ全農場ノ  
引渡ヲ受クルヲ得スマルチンマスニ入場スレハ新佃  
戸青菜ヲ作ル為メ好時節ニ遺科地ヲ耕鋤スルヲ得ル  
作物ノ土地ヲ離レタルキ全農場ヲ受取ルハ畜類ヲ蕃  
息セサル佃戸ニ便利ナリ此佃戸ハ其農場ニ於テ舊佃  
戸ヨリ或ハ他處ヨリ布草用ノ稿稈及ヒ食餌用ノ蕪菁  
ヲ購求シ得ルノ量ニ應レテ冬月飼養ノ畜類ヲ買入ル

ルヲ得レハナリ耕壤農及ヒ都會近旁ノ農者ハ此時期  
ヲ以テ入場ニ便利ナリトス酪農ハ<sup>1</sup>ウヰットソングイニ  
入場スレハ夏月間牧草及ヒ冬月ノ蕪菁ヲ得ルヲ以テ  
最モ便利ナリトス且又牧農ハ牧牛牧羊ヲ問ハス之ヲ  
便利トス概シテ各農ノ入場ニ最モ便利ノ時期ハ<sup>1</sup>ウヰッ  
トソングイニ家屋及ヒ草地ヲ受取り作物ノ土地ヲ離  
ル、キ土地ヲ受取ルニアルナリ  
第三千二百五十八章 英倫ニ於テ入場ノ時期ハ各州  
大ニ異ナリ然レモ<sup>1</sup>アールドレグーデイニ家屋及ヒ草  
地ヲ受取り<sup>1</sup>ミッチェルマスニ土地ヲ受取ルヲ以テ最モ通  
常トス或ル地方ニ於テハ早ク<sup>1</sup>カントルマスニ入場ヲ



ナスモアリ

第三千二百五十九章 舊佃戸ハ退去ノ節、農場ニ於テ  
 作物ヲ有スルモノニシテ佃戸ハ之ヲ賣却スルニ三法  
 アリ其一ハ「スチールボウ」農場附屬物ノ意トシ稿稈ヲ残スヘ  
 キ其其二ハ全作物ヲ其生禾ノ儘ニテ公賣スル之レナ  
 リハントル氏地主及ヒ佃戸法例釋義ニ曰ク稿稈及ヒ肥  
 肥料ハ「スチールボウ」ナリトノ開陳ニ由テ稿稈及ヒ肥  
 料ハ地主ヨリ與ヘ且之ヲ地主ニ返附スル即チ地主ヨ  
 リ其権利ヲ讓リ與ヘタル新佃戸ニ引渡スヘキモノト  
 シ斯ノ如クニシテ農場ニ肥料及ヒ之ヲ造ル物料ヲ永  
 遠ニ潤澤ナラシムト「スチールボウ」ハ新佃戸ニ一大恩

物ニシテ入場ニ際シ其稿稈及ヒ肥料ノ價ニ相當スル  
 資本ヲ得タルニ同シ此等ノ物ナケレバ兩様共ニ他處  
 コリ買入サル可ラス

第三千二百六十章 舊佃戸退去ノ節農場ニ有スル作  
 物ヲ生禾ノ儘ニテ公賣スルニハ作物ヲ刈收スル若干  
 日前ニ於テス買者ノ便利ノ為メ田野ヲ墾場ノ長<sup>サ</sup>ニ從  
 ヒニ或ハ數墾場ノ小區ニ分ツ但一區五<sup>エ</sup>一<sup>ク</sup>ルヨリ  
 大ナラス燕麥ト燕麥稈トハ新佃戸ノ買入ル、ニ最<sup>モ</sup>有  
 用ノ物ナルヲ以テ舊佃戸ハ成丈ケ多ク此穀物ヲ耕作  
 ス新入ノ佃戸ハ其全作物又ハ其一部ヲ買入ル、ニ他  
 人ヨリモ敢テ好機ヲ得ル<sup>ル</sup>ナキハ明瞭ナリ而テ新佃



戸ノ買ハント欲スルヨリモ其價ノ貴キカ為メ或ハ他處ニ於テ稿稈ヲ買入ル、トアリ然レ常ニ新佃戸ハ當時大ニ渴望スル稿稈ヲ得ンカ為メ止ムヲ得ス其穀物ノ儘ニテ之ヲ買入ル、ニ至ル此ニ由テ新佃戸ハ冬月其畜類ノ要スル丈クノ稿稈ト夏月土地ニ施スニ足ルヘキ肥料トヲ買入ル、ノ資金ヲ有セサル可ラス新入ノ佃戸、農場準備ノ外ニ資金ヲ有セサルハ稿稈及肥料ヲ多量ニ買入ル、能ハスシテ其畜類及土地ハ稿稈肥料ノ不足ヲ告クヘシ舊佃戸退去ノ節農場ニ有スル作物ヲ其農場ヨリ新ニ借受タル農場ニ運搬シ得ルトアルモ二農場甚タ接近スルニアラサレハ各農夫共ニ繁

忙ニシテ助勢ヲ得ル能ハサルノ時節ニ於テ其作物ヲ運搬スルハ實際做シ難カルヘシ或ル借地ニ於テハ舊佃戸其作物ノ一半ヲ新入ノ佃戸又ハ地主ニ價ヲ得テ差出スヘキヲ約ス而シテ佃戸地主共ニ固辭スレハ自由ニ之ヲ賣却スルヲ得ル又或ル場合ニ於テ全ク貸借ニモ賣買ニモ拘ラスシテ新舊兩佃戸間ニ全作物ニ就キ私ノ約定ヲナスモアリ都テ買者ハ其買受タル部ノ作物ヲ刈採リ運搬スルノ費用ヲ負担ス到底此法ニ由レハ新佃戸ハ「スチールボウ」ノ在ルモノヨリモ便ナラス予ノ見ヲ以テスレハ「スチールボウ」ハ都會近旁ノ農場ヲ除キ總テノ耕農場ニ於テ稿稈ト肥糞トニ就キ欠



可ラサルノ件ナリ新入ノ佃戸ト舊佃戸ノ間ニ生禾ノ沽價ハ来ル冬月市場ニ於テ穀物ノ得ルヘキ價ニ由テ定ム新入ノ佃戸始テ農場ヲ借受タルモノナレハ其家屬ノ扶持及ヒ馬ノ飼料又翌作ノ燕麥地區ノ播種ニ燕麥ヲ多ク消費ス作物ハ「エークル」ヲ以テ算シ刈採運搬堆禾及ヒ脱稈ノ費用ヲ引去リタル後「エークル」ニ付穀物ノ價ヲ知ル稈ハ穀物ノ「クオルトル」ニ付テ定ム仮令ハ小麥作ノ收穫「エークル」ニ付四「クオルトル」ト算シ「クオルトル」ニ付四十「シリ」稈ハ「クオルトル」ニ付十「シリ」ノ價トスレハ「エークル」ノ價左ノ如シ小麥四「クオルトル」「クオルトル」ニ付四十「シリ」八。磅

稈「クオルトル」ニ付十「シリ」

二〇〇

計

一〇〇〇磅

「エークル」ニ付刈採ノ費 一〇〇磅

全 運搬ノ費 六〇

脱稈ノ費「クオルトル」ニ付「シリ」 四〇

小計 一〇〇磅

差別「エークル」ニ付作物ノ價 九〇〇

他ノ穀物ニ於テモ同一ノ方法ヲ以テ算ス燕麥稈ノ價ハ「クオルトル」ニ付五「シリ」六「ペン」ス大麥稈ハ四「シリ」ト算シ得ル

第三千二百六十一章 舊佃戸退去ノ節ニ有スル作物



ヲ生木ノ儘ニテ賣却シ買者之ヲ刈採運搬シタルキ新  
佃戸ハ入場ヲナシテ遺科地ヲ耕耨シ舊佃戸ハ其地ヲ  
出立ス然レモ稿稈ヲ農場ニスチールボウトシテ殘ス  
ヘキ片舊佃戸ハ其作物ヲ脱稈シテ運搬スル迄堆禾場  
及農屋ヲ使用スルノ権アリ且之レカ為メ脱稈機脱稈  
用ニ供スル馬又馬力ヲ以テ運搬スルキハ穀物ヲ市場  
ニ運フ馬ヲ容ルベキ役馬既及穀物ヲ脱稈シ之ヲ市場  
ニ運搬スル等ノ一ヲ管理スル男一名女三名ノ宿スヘ  
キ小舎ヲ占用シ得ル舊佃戸穀物ヲ脱稈スルニハ新佃  
戸遺利ナシニ其稿稈ヲ畜類ニ消費シ得ルヨリモ速カ  
ニ行フ可ラス又新佃戸其稿稈ヲ用フルニハ舊佃戸ニ

来ル<sup>ウ</sup>ツトソソ<sup>ン</sup>デ<sup>イ</sup>ニ於テ堆禾場ヲ明渡スヲ得セシ  
ムルヨリ逕徐ナル可ラズ其日ニ至リ舊佃戸ハ穀室ノ  
鍵ヲ渡シ小舎及ヒ馬厩ヲ明渡シ其人夫及ヒ馬ヲ引卒  
シテ全ク農場ヲ去ル然レモ新佃戸ハ舊佃戸ヨリ報酬  
ヲ得テ穀物ヲ脱稈シ之ヲ市場ニ送ルノ勞ヲ別受クル  
一往々アリ

第三千二百六十二章 又茲ニ居常地主ト舊佃戸トノ  
間ニ爭論ヲ生スルノ事件アリ此ハ至要ナルモ大事ニ  
アラス而シテ新佃戸大ニ關係アルヲ以テ新佃戸ニ委  
シテ之ヲ決セシム之則チ舊佃戸其退去ニ際シ至當ノ  
修繕ヲ加フヘキ藩籬門戸農屋住家等ノ形状ニ係ル之



ヲ檢定スルニ最モ満足ナル方法ハ舊佃戸ト新佃戸ニ  
テ雙方ヨリ撰ヒタル親友ノ中裁ニ委任スルニアリ其  
仲裁人ニ一名ノ會長ヲ命スルノ權ヲ與ヘテ其意見ノ  
合ハサル片之ヲ決セシム藩籬及ヒ家屋ノ修繕ヲ加ヘ  
タル丁明瞭ナレハ速ニ落着ニ歸スヘシ然レハ修繕ヲ  
加ヘサルモノハ中裁人各工事ニ熟セル匠工ニ命シテ  
中裁ヲナス物件ノ形狀ヲ察シ修繕ノ費ヲ計筭シテ其  
見込書ヲ差出サシメ以テ中裁人ノ証據トナス中裁人  
ノ審査ニ由テ舊佃戸ハ新佃戸ニ修繕費ヲ償ヒ新佃戸  
ハ修繕ヲ行フ而シテ新佃戸ハ復タ其後續者ニ相當ノ  
修繕ヲ加ヘ其物件ヲ引渡サ、ルベカラス此等ハ通常

中裁ニ委任スルノ件ナリ其他舊佃戸退去ノ節ニ有ス  
ル作物ノ價ノ如キ件ヲモ此中裁人ニ委任スルナリ  
第三千二百六十三章 幼農者始テ農場ノ管理ヲナス  
ニ當リ先ツ實視スル處ノ最大困難ハ勞力ノ配置整頓  
ニアリ工事及ヒ人夫ニ應シテ其配置宜キヲ得ンニハ  
自ラ有スル人夫馬及器械ヲ以テ一定ノ時間ニ成就シ  
得ヘキ事業ノ量ヲ能ク識知センナク要ス故ニ精正ノ  
研究ニ由テ此識知ヲ得ルヲ以テ幼農者ノ要務トス何  
トナレハ役夫ノ配置ニ精巧ナレハ無益ニ時間ヲ消ス  
ルナク徒ニ体力ヲ費スナク且土地最良ノ狀態ニ  
於テ工事ヲ充分ニ成就シ加フルニ役夫ヲ互ニ整頓ス



レハ各夫其處ヲ得テ各自受持ノ工事ヲ容易且安泰ニ行フヲ得レハナリ

第三千二百六十四章○實地農者ハ英倫ト蘇格蘭ノ農事ヲ比較スルニ其差異田野ニ於テ役夫ノ配置法ヨリ甚タレキモノ多カラス英倫ニ於テハ同時ニ一農場ノ各田野ニ於テ役夫ヲ使用シ彼此各處ニ犁鋤ノ回轉スルヲ見ルト通常ナリ方今蘇格蘭ニ於テハ役夫ヲ使用スルニ一處ノ工事ニ全カヲ集合スルヲ以テ一大主義トス諸工事中數多ノ列馬及ヒ人夫ノ合一セル作業ヲ要スルモノ多シ之ヲ合一ニ使用スレハ同シ田野中一定ノ場所内ニ在リテ成ルヘク少時ニ工事ヲナシ得ヘ

シ而シテ何等ノ種類ヲ論セス一隊ノ役夫ハ必ス先行シテ他隊ノ之ニ次キ工事ヲ成就スルノ場所ヲ開キ以テ一夫ヲモ放手セシメサル様ニ之ヲ配置整列スルニアラサレハ其目的ヲ達フルト能ハス役夫各田野ニ散在シ各別ノ業ヲ營ム片ハ互ニ爭先ノ心ナク又能ク監視ヲナス能ハス從テ工事ヲナスト少ナク且粗惡ナリ愛爾蘭ニ於テハ田野ノ狀態甚タ亂雜ヲ極ム蓋シ田野ニ於テ役夫ノ順序正シキ配置法ヲ設クルヲ計ラス或ハ之ヲ知ラサルカ如シ

第三千二百六十五章　ブルンス氏英國內ノ各國ニ於テ各種役夫ノ產出高價值及ヒ賃銀ヲ示ス左ノ如シ



英倫	各役夫ニ付耕地 「エークル」ノ数	全上牧地	計
一三ト七分ノ一		一七	三〇ト七分ノ一
蘇格蘭	各役夫ニ付耕地 「エークル」ノ数	全上牧地	計
一九ト三十四分 ノ二十五		一七ト十七分 ノ十一	三七ト十七分 ノ十
愛爾蘭	各役夫ニ付耕地 「エークル」ノ数	全上牧地	計
二ト八分ノ七		四	六ト八分ノ七
英倫	各尋常役夫ニ付 耕地「エークル」ノ数	全上牧地	計
五〇		七四	一二四
蘇格蘭	各尋常役夫ニ付 耕地「エークル」ノ数	全上牧地	計
五〇		四四	九四
愛爾蘭	各尋常役夫ニ付 耕地「エークル」ノ数	全上牧地	計
二六		四一	六七
英倫	各尋常役夫ニ付 耕地「エークル」ノ数	全上牧地	計
三〇		四〇	七〇
蘇格蘭	各尋常役夫ニ付 耕地「エークル」ノ数	全上牧地	計
一五九		一四二	三〇一

愛爾蘭	各小童ニ付耕地 「エークル」ノ数	全上牧地	計
七		一〇	一七
英倫	各場婦ニ付耕地 「エークル」ノ数	全上牧地	計
八四		一〇九	一九三
蘇格蘭	各場婦ニ付耕地 「エークル」ノ数	全上牧地	計
八四		七七	一六一
愛爾蘭	各場婦ニ付耕地 「エークル」ノ数	全上牧地	計
一一		一六	二七
英倫	各役夫ニ付耕地 「エークル」ノ数	全上牧地	計
三五一		四五九	八一〇
蘇格蘭	各役夫ニ付耕地 「エークル」ノ数	全上牧地	計
一八六		一六六	三五二
愛爾蘭	各役夫ニ付耕地 「エークル」ノ数	全上牧地	計
一一		一六	二七
英倫	各役夫ニ付耕地 「エークル」ノ数	全上牧地	計
七七		六一	一三九

ノ

ノ

ノ

ノ



蘇格蘭	一〇七	三五	五二一八九	一六〇二二
愛爾蘭	一四〇	一〇〇	二四〇	
役夫				
英倫	一〇〇〇	二七五〇	八六七五 <small>磅</small>	一三九三五〇 <small>磅</small>
蘇格蘭	一七〇〇	四二四三七七	二七二八四一六	
愛爾蘭	二〇〇〇	一五〇〇	四八〇〇	
貨銀				
產出高ノ全價				

ブルンス氏曰ク此表ハ三王國內未タ實施法ノ一定ナラサルヨリシテ三國農業ノ狀況ヲ知ル普通ノ指針ト認定スルニ足ルヘキモノアラサルノ明証ヲ示ス而シテ其差異ハ學術ノ進否ノミナラス全國人民ノ健全ニ關スル身体ノ強弱及ヒ大小ニ於テ存セリ且又其差異

愛爾蘭ト英倫トノ間ニミナラス英倫ト蘇格蘭トノ間ニモ存セリ蘇格蘭ノ各役夫ハ北部ノ稍貧瘠ナル土壤ヲ以テ其傭主ニ收益ヲ與フルト肥饒ナル土壤ヲ以テ英倫ノ役夫ノナスヨリモ多キト毎年二十磅ナルヲ見ル若シ土壤ノ肥沃同一ナランニハ其差更ニ大ナルヘシ各役夫ニ付テノ此差異ハ全國ノ生産高ニ於テ昔日ノ英倫佃租簿ニ殆ト同一ナル金額ノ不足ヲ生スルハ明カナリ又愛爾蘭ニ於テ全産出高ヲ其農業役夫ニ割付テ商賈ノ利益十分一稅賦稅及ヒ地主佃戸ノ土地ニ入レタル資金ノ利子等ヲ引去ラサルモ英倫ノ高ニ及ハサルト遠シト若シ前表ノ計數モ蘇格蘭ニ於テハ耕



地百五十九「エークル」ニ付役夫一名ニテ一ケ年百七磅  
三「シリ」五「ペン」ノ價ヲ産出シ愛爾蘭ニ於テハ耕地  
七「エークル」ニ付役夫一名ニテ一ケ年ノ産出高僅ニ十  
四磅ノ價ナリトノ事實ノ明証トナルニアラスンハ恐  
クハ信スルニ足ラサルヘシ之ニ由テ見レハ愛爾蘭ニ  
於テ貧民ノ群ヲナスハ嘗テ驚クヘキコトニアラス  
第三千二百六十六章○「スチールボウ」ノ起原ニ就キハ  
ントル氏ノ説ニ曰ク有名ナル千四百四十九年第十七  
編ノ法例ハ蘇格蘭佃戶ノ状態ニ至要ノ變更ヲ来シタ  
ルノ基礎ナリ此法例ニ由リテ佃戶ハ土地ノ買受主債  
主及ヒ其他地主ノ後續者ニ關シ自己占有權ノ安固ヲ

得タリ然レモ其法例ノ條款ニ該法例制定ノ日ニ當リ  
耕者ノ貧困ナリシヲ証明ス該法例中耕者ヲ「土地ヲ耕  
ス貧民」ト称ス之則チ資力熟練ニ乏シキノ意ヲ顯ハス  
モノナリ當時ヨリ以前ニ佃戶ハ農場ノ準備及ヒ耕具  
ノ一部ヲ所有セシトノ証跡ナキニアラサレトモ之ヲ  
要求シ得ル權利ノ程度ヲ詳細ニ查究スルコト難シ之ヲ  
要スルニ恐クハ其耕者ハ後ニ「スチールボウ」佃戶ト称  
セシ等類ノモノナリシコト或ハ實ニ近シトス此佃戶今  
ハ全ク其跡ヲ絶ツモ千七百年代ノ終迄ハ尚ホ實際ニ  
存セリ此佃戶ハ入場ノ節地主ヨリ農具家畜及ヒ穀物  
ヲ受取り借地期限満チテ農場ヲ去ルルハ同一ノ良好ナ



ル景態ニテ同量同種ヲ返納スヘキヲ約セリ斯ノ如ク  
 シテ財産ノ制限アル所有權ヲ與ヘタリ此方法ニヨル  
 稼穡法ハ交社ノ初世ニ於テ常ニ行ハレタルヲ數多ノ  
 事跡ニ徴シテ明瞭タリ希臘ニ於テ耕者ハ此等類ノモ  
 ノナリシト明ナリ羅馬ニ於テハコロニ、パルチア、リ  
 亦此等類ニ屬ス歐羅巴本地ニ於テハ中古ノ間ノミナ  
 ラス或ル開明國ニ於テモ輒近マテ殆ト他類ノ農民ア  
 リシヲキカス佛蘭西及ヒ意多利ノ州郡ニ於テ大半此  
 佃戸ハメタイアスト名ケ千七百年代ノ末迄全地ヲ占  
 有シタリ而シテ佛蘭西ノ法律論集中此借地約定ヲ管  
 スルノ規則夥多ナリ又農業ノ大ニ進歩セシ東方ノ諸

國ニ於テ此法ヲ實行ス英倫ニ於テモ亦此法ノ行ハレ  
 タル痕跡尚ホ存セリ何トナレハ斯ノ如ク畜類并ニ穀  
 物ヲ佃戸ニ給與シタル古昔ノ借地法ヲ前ニ論セシモ  
 ノアリ蘇格蘭ニ於テ同一ノ習俗ニ由リ同一ノ成果ヲ  
 来シタルヲ疑ヒナシ「スチールホウナル術語ハテウト  
 ニック語ニテ農場ニ附屬スル物件ト云フノ義ニシテ此  
 契約ノ起リシ基ナルモ往昔ノ記録ニハ之ヲミルヲ意  
 外ニ少ナシ之恐クハ總テノ佃戸此等類ニ屬セシニ由  
 テ借地約定中農具家畜及ヒ種子ヲ佃戸ニ給與スルノ  
 件ヲ默許セシニ由ルナラン  
 第三千二百六十七章○舊佃戸ト新佃戸トノ間ニ山丘



畜類ノ價ヲ定ムルニ三法アリ其一ハ「ウキットソングイ」ニ於テ二名ノ中裁人山地ニ至リ畜類ヲ點視シ十月「アルキルク、トレイスト」後ニ價ヲ定ム其二ハ境界地方ニ行ハル、モノニシテ新舊ノ佃戸各自ニ中裁人一名ヲ擇ヒ此中裁人ニテ復一名ノ長ヲ擇ヒ此人「ウキットソングイ」ニ其價ヲ定ム且此人ハ中裁人ノ行フヘキ諸事ヲ担当ス但シ中裁人ハ代人トナリ判者トナル「ナシ」其三ハ新舊佃戸ニテ一名ノ中裁人ヲ擇ヒ此人「ウキットソングイ」ニ於テ一時ニ其價ヲ定ム此ヲ以テ最モ自然ノ良法トス

農場ノ準備ヲ論ス

第三十二百六十八章 農場ヲ檢察シ之ヲ評價シ既ニ納メント欲スル佃租ノ高ヲ決心シテ佃租ノ入札ヲナシ落札ノ上、借地ノ約款ヲ承諾シ新舊佃戸間ノ事件ヲ中裁人ニ委任シ以テ入場ノ時期至ルヲ待テリ從テ方今農場必要ノ準備ヲナスヘキノ時トス其農場準備ノ實況ヲ了解セシモンニハ五百「エーケル」ノ農場ニ五歲輪轉法ニ適スル各期ニ購入スヘキ農具及ヒ始業ニ要スル畜類及ヒ穀物ヲ舉示スルヲ肝要トス但シ器具ノ價ハ商店ニテ買ヒ又器具製造匠ニ就テ求ムルトニ由リ各地ニ於テ差異ナキ能ハス茲ニ示ス處ハ依陣堡府ニ於テノ價ナリ而シテ其記載ヲ簡易明瞭ナラシメン



カ為メ唯其價ノ一ヲ示スノミ  
 第三千二百六十九章〇千八百六十七年十二月〇「マル  
 チンマ」ニ於テ休閒地ヲ受取リ「ウツトソング」ニ於  
 テ草地及ヒ家屋ヲ受取リタリト假想ス但シ舊佃戸退  
 去ノ節農場ニアル作物ヲ管理スル為メ使用スル穀室  
 堆禾場及ヒ二小屋ヲ除ク最初ニ要スルノ費用ハ休閒  
 地ヲ耕耨スルニアリ備エヲ以テスレハ「エーケル」ニ  
 付ハ「シリ」ナリ然レモ耕耨始ニ於テ此國ノ慣習ニ依  
 リ新友ヲ喜迎スルノ微意ヲ表セント欲スル隣友ノ助  
 カヲ以テスルハ其農僕ニ麥酒及ヒ麵包ヲ給スルト  
 農主ヲ饗宴スルトノ費ナリ扱ヘハ九十人ト見積リ一

人ニ付ニ「シリ」六「ペン」ストスレハ	一	五	〇
第三千二百七十章〇千八百六十八年三 月〇千八百六十八年五月二十六日ヨリ			
一ケ年間農僕ヲ雇入ル、夕メ傭入市場 ニ赴ク費及ヒ約定手金共	一	〇	〇
但シ雇入ルヘキ人員ハ場長飼羊者飼 牛者主籬者各一名犁夫五名及ヒ一隻 馬ヲ使役スル少年一名ナリ			
役馬十一頭但シ四歳乃至六歳ノモノ 一頭			
ニ付三 十磅	三三〇	〇	〇
蓄息用牝馬子一頭	三〇	〇	〇



乘馬一頭但シ五六才ノモノ  
役馬用馬具六組 但シ各組左ノ諸品ヨリナル

二五〇〇

韁二個、鞆二個、曳車馬ノ鞍并ニ鞞二個、  
サドル

全馬ノ腹帶二條、背帶三條、長鏈二對、短  
バックバンド

鏈一對、車鏈二對、前馬用ノ鏈二對、全馬

ノ腹帶一條、鉄製ノ背帶二條、曳鏈、帶革

各一個、車用繩一對、長短車綫及ヒ犁綫

鼻袋二個 一組ニ付 價八磅

四八〇〇

一隻馬車ニ用フル馬具一組

五〇〇

乘馬用鞍及ヒ韁但シ圈鞆共

五〇〇

役馬厩用穀桶一個

三〇〇

兼馬厩用穀桶一個

一〇〇

一隻馬「ホールボディ」車十輛 一輛ニ付 價十磅

一〇〇

「チルトカルト」二輪車二輛 一輛ニ付 價十二磅

二四〇〇

穀車一隻、馬車ノ軸上ニ安置スルモノ六

輛 一輛ニ付 價三十磅

二二〇〇

「カト」架二個 一個ニ付 價三十磅

三〇〇

前馬用ノ「ストレッツ」六個 一個ニ付 價一十磅

〇六〇

鐵製犁六個 一個ニ付 價四磅

二五〇

犁橈六個 一個ニ付 價二磅

〇一二〇

鐵製小犁二個 一個ニ付 價五十五磅

五〇〇

鐵製重撥土板犁一個

三〇〇



鐵製除草器二個	一個ニ付價 五十リシ	五	〇	〇
糶糶六對但シ大衡共	一對ニ付價四 十二リシ	一二	一二	〇
糶ヲ運搬スル車一輛		三	〇	〇
衡六連但シ附屬品共	一連ニ付價外ニ豫 十二リシ			
備一連		四	四	〇
削畦用長衡三個	一個ニ付價ニシ 六リシ	〇	七	六
モリリシ杆ノ尖端鉄製	六本一本ニ付價一 三リシ			
區		〇	七	六
牧草播種糶一連		一	七	〇
フィンレソソ氏鑿土犁一個		七	〇	〇
一雙馬曳ノ鐵製靱軸二個	一個ニ付 價十二磅	二四	〇	〇

二輪ノ鎮壓轆一個		六	一	〇
孤輪車一輛		一	〇	〇
三輪ノ撒播器械一個		一二	〇	〇
蕪菁用二列畦播器械一個		六	一	〇
骨粉及ヒ蕪菁二列畦播器一個		一一	一	〇
肥糞用叉子七挺	一挺ニ付價 三リシ	一	一	〇
擴開用叉子四挺	一挺ニ付價 二リシ	〇	八	〇
石灰杓子七挺	一挺ニ付價 四リシ	一	八	〇
整用杓子二挺	一挺ニ付價四 六リシ	〇	九	〇
整用鋤三挺	一挺ニ付價四 六リシ	〇	一三	六
籬用鋤一挺		〇	四	六



其ノ...  
 和蘭除草器一挺  
 既又七挺  
 長又二挺  
 半長又四挺  
 田野及堆禾用又子四挺  
 肥糞用鉄搭三挺但シ皆牛舎用ニテ二齒  
 三齒四齒ノ搭各一挺ナリ  
 刻泥器二挺  
 鉄製冢槽一個  
 大籬刀一挺  
 剪截刀一挺

和蘭除草器一挺	○	二	六
既又七挺 <small>一挺ニ付價一 リシ六バシ</small>	○	一	〇
長又二挺 <small>一挺ニ付價ニ リシ三バシ</small>	○	四	六
半長又四挺 <small>一挺ニ付價一 リシ九バシ</small>	○	七	〇
田野及堆禾用又子四挺 <small>一挺ニ付價一 リシ九バシ</small>	○	七	〇
肥糞用鉄搭三挺但シ皆牛舎用ニテ二齒			
三齒四齒ノ搭各一挺ナリ <small>一挺ニ付價 四バシ</small>	○	一	二
刻泥器二挺 <small>一挺ニ付價ニ リシ三バシ</small>	○	四	六
鉄製冢槽一個 <small>但シ槽内 分畫共</small>	一	一	〇
大籬刀一挺	○	七	六
剪截刀一挺	○	三	〇

截縮刀一挺	○	五	〇
圓砥石一個	○	一	〇
斧一挺	○	三	〇
鋸一挺	○	六	〇
大槌一挺	○	六	〇
兩嘴鋤二挺	○	一	二
マッコ一挺	○	六	〇
小石礎二挺	○	三	〇
鉄製穿土器一個	○	八	〇
鉄製槌及楔	○	一	五
松香ノ瓶二個	○	五	〇

片ノ...  
 農務省



油壺二個	〇	五	〇
牝牛帶七條	〇	七	〇
牡牛鏈一條	〇	二	〇
アセル容器及概一個	〇	一	八
ダブル、クォルト容器二個	〇	五	〇
播種用布二枚	〇	二	〇
種子運搬用ノ「ルスキー」二個 <small>一個ニ付價五「シ」リ</small>	〇	一	〇
穀物囊二十個 <small>一個ニ付價一「シ」六「マ」ン</small>	一	〇	〇
既用桶二個 <small>一個ニ付價四「シ」六「マ」ン</small>	〇	九	〇
馬布二枚 <small>一枚ハ價二十「シ」リ 一枚ハ全十「シ」リ</small>	一	〇	〇
放血器、放血針、灌腸器、飲劑角	〇	六	〇

糞汁用唧筒及糞槽一個	五	〇	〇
利水用鑽杆及酒精水準器	一	〇	〇
小計	七	六	二
第三千二百七十一章〇千八百六十八年			
四月〇五百「エー」クルノ耕地ヲ區畫スル			
左ノ如シ			
百「エー」クル 新草			
百「エー」クル 二年草			
百「エー」クル 燕麥			
八十「エー」クル 蕪菁			
百「エー」クル 十「エー」クル 馬鈴薯			



十「エーケル」	無作物休閑地								
五十「エーケル」	大麥								
五十「エーケル」	冬播春播ノ小麥								
合五百「エーケル」									
草ノ種子一「エーケル」	ニ付紅苜蓿七磅白								
苜蓿五磅連年種	裸麥草一「アセル」	半ニシ							
テ百「エーケル」	ニ付左ノ如シ								
白苜蓿四「セントウエー」	ト								
五十二磅	一「セントウエー」	ニ付五十二							
シリ	一「磅」								
シリ	一「三」	〇							
紅苜蓿六「セントウエー」	ト								

二十八磅	一「セントウエー」	ニ付六十八							
シリ	二	一							
シリ	五	〇							
裸麥草十八「クオルトル」									
六磅	一「クオルトル」	ニ付二十	一	八	三	〇			
五月ノ末草地ニ就カムルマテ馬ニ與フ							五	一	〇
ル乾芻五噸	一噸ニ付	價三磅					一	五	〇
燕麥四十「クオルトル」	一「クオルトル」	ニ付價十六	三	二	〇	〇			
種馬鈴薯四噸	四「セントウエー」	ト價二噸	八	八	〇	〇			
千八百六十八年三月ヨリ五月二十六日									
迄八週間ノ傭銀七名ノ役夫	一週間一名	ニ付十							



全上場婦	二八	〇	〇
全上鍛冶工	七	〇	〇
小計	一四九	九	〇
第三千二百七十二章〇千八百六十八年			
五月			
藩籬及家屋ニ付中裁費ノ割前	二	〇	〇
瑞典種蕪菁ノ種子百二十磅	六	〇	〇
黄根種蕪菁ノ種子三十磅	一	〇	〇
白球種蕪菁ノ種子九十磅	三	七	六
海鳥糞十二噸	一	二	〇

骨粉二百	二五	〇	〇
家禽〇鷺			
緞雞	五	〇	〇
雞	一八	〇	〇
曳馬トナス	一	〇	〇
全上一歳ノ駒一頭	二	〇	〇
短角牝牛一頭	二五	〇	〇
短角牝牛九頭	一	二	六
短角牝牛二十頭	五	五	〇
一歳短角牝牛二十頭	一	二	〇

農商務省



リールトル種牝羊及ヒ兒羊百二十頭 ニ付價四十 五シリン	二七〇	〇	〇
リーストル種牝羊及ヒウエヅルホ グ百六十頭 一頭ニ付價三 十二シリン	二五六	〇	〇
リーストル種牝羊二頭	一〇	〇	〇
千八百六十八年五月二十六日ニ前拂ノ 農僕穀物代左ノ如シ			
農僕十名一名ニ付大麥一クオルト 一ブセル即チ合十一クオルトニブ セル一クオルトニ付 價二十四シリン	一三	一〇	〇
全上一名ニ付豌豆三ブセル即チ合三			

クオルト六ブセル 一クオルトニ付 價二十六シリン	四	一七六	
全上一名ニ付燕麥七クオルト半即 チ合七十五オクルトル 一クオルトニ付 價十六シリン	六〇	〇	〇
半ケ年ノ濟貧税	一〇	〇	〇
小計	二六三	五	〇
第三千二百七十三章〇千八百六十八年 六月			
刈草大鎌三挺 一挺ニ付價 十シリン	一	一〇	〇
芻把八挺 一挺ニ付價一 リシ六バンス	〇	一二	〇
馬力乾芻及遺科把一個	三	一五	〇

近代農書 卷之五十五 三十一 農務省



二十尺ノ長梯子一挺	一尺ニ付價 九バンス	〇	一五	〇
十二尺ノ半長梯子二挺	一挺ニ付價 九リ	〇	一八	〇
短梯子六挺	一挺ニ付價 五リ	一	〇	〇
飼羊者ノ鈎子		〇	三六	
浴架一個		〇	一〇	〇
浸麥用及藥浴用ノ桶二個		〇	一五	〇
浸麥用籃二個	一個ニ付價 三リ	〇	六	〇
羊毛ノ剪刀二挺		〇	六	〇
羊毛ノ秤器一具		二	一〇	〇
羊ノ記印器及粗松香鍋一個		〇	三	〇
羊ノ屠殺用鈎及串二個		〇	二	〇

小計		一一	一五六	
第三千二百七十四章〇千八百六十八年				
七月				
馬鈴薯採收ノ叉子二挺		〇	六	〇
馬鈴薯用ノ籃九個	一個ニ付價 九バンス	〇	六九	
場婦用ノ蕪菁苗減殺器十挺	一挺ニ付價 一リ			
穀物ノ雜草ヲ刈ル鎌十挺	一挺ニ付價 六バンス	〇	一一	八
綯繩器四個	一個ニ付價 二リ	〇	八	〇
小計		一一	一七五	五
第三千二百七十五章〇千八百六十八年				



九月

庭場ニ用フル牛ノ稿架六個	一個ニ付價 十シリン	三	〇	〇
牛喉ニ用フル探子一個	十四シ 牛ノ管針	〇	一七	六
飼羊用ノ截蕪菁器一基	六シリン	〇	〇	〇
飼牛用ノ截蕪菁器一基	六シリン	一	〇	〇
蕪菁ノ斷根ヲ堀ル鑿六挺	一挺ニ付價 ニシリン	〇	一	〇
蕪菁ノ葉及根尾ヲ去ル刀六挺	一挺ニ付 價一シリン	〇	九	〇
飼羊用ノ芻架二個	一個ニ付價 三十シリン	三	〇	〇
飼羊用ノ蕪菁槽二十個	一個ニ付價 六シリン	六	〇	〇

網ヲ張ル枕三百本	一本ニ付價 一マシリン	一	〇	〇
羊ヲ圍ム網二十張	一張ニ付價七シ 六マシリン	七	一	〇
打枕用ノ木槌一挺		〇	二	六
建枕用ノ「ダライウル」一挺		〇	五	〇
截乾芻刀一挺		〇	三	六
截芻器一基		八	一	〇
既提燈二個	一個ニ付價三シ 六マシリン	〇	七	〇
提燈三個但シ場長飼羊者飼牛者ノ用各 一個ナリ		〇	一〇	六
飼草ノ給與ヲ報スル喇叭一個		〇	二	〇
穀物畦播器一基		七	〇	〇



小麥ノ種子三「クオルト」五「アセル」一「ク  
ト」ニ寸價四  
十五「シリ」

八  
三  
〇

小計

五四  
七  
〇

第三千二百七十六章〇千八百六十九年

五月

牝豕二頭牡豕一頭鬮豕四頭

一  
〇  
〇

飼育スル犢牛十四頭 一頭ニ付價二  
十五「シリ」

二  
一  
〇  
〇

前年四月ヨリ一ケ年農馬六雙ノ飼料燕

麥一雙ニ付三十四「クオルト」トシ合二

百四「クオルト」及兼馬一頭ノ飼料二十

三「クオルト」合計二百二十七「クオルト」

一「クオルト」  
付價十六「シリ」

一八  
一  
二  
〇

百「エー」ク「ル」ノ燕麥種子、一「エー」ク「ル」ニ付

五「ア」セル「ト」シ合六十二「クオルト」半「ク

オルト」ニ付  
價十六「シリ」

五  
〇  
〇

四十「エー」ク「ル」ノ小麥種子、一「エー」ク「ル」ニ

付三「ア」セル「ト」シ合十五「クオルト」  
一「クオルト」

ト「ル」ニ付價四  
十五「シリ」

三  
三  
一  
五  
〇

五十「エー」ク「ル」ノ大麥種子、一「エー」ク「ル」ニ

付三「ア」セル「ト」シ合十八「クオルト」六「ア

セル」  
一「クオルト」ニ付  
價二十四「シリ」

二  
二  
一  
〇  
〇

苜蓿ノ種子前年ニ同ジ

五  
一  
一  
〇



一ケ年ノ石灰	二〇	〇	〇
通行税	五	〇	〇
一ケ年ノ濟貧税	二〇	〇	〇
一ケ年ノ道路修繕費	五	〇	〇
一ケ年ノ學校教員ノ給料	一	〇	〇
一ケ年ノ租税	二	一	〇
一ケ年ノ保險料	一	一	〇
一ケ年ノ蠅鼠捕獲賃	一	一七	六
役馬六雙ノ鍛冶工			
其他工	二	一	〇
一ケ年間ノ油獸脂及粗松香	二	一	〇

羊ノ藥浴四百四十頭	二	一五	〇
農僕十名初年間ノ給銀	七	四	〇
場婦八名初年間ノ給銀	四	八	〇
其他ノ場婦夏季間ノ給銀	五	〇	〇
農僕八名ノ穀物半年分	二	四	〇
五月ヨリ收納期迄馬ノ飼料燕麥四十五			
小計	六	五	〇
第三千二百七十七章〇千八百六十九年			
ノ收納迄			
脱稈機脱芒機及碎穀器各一基			



但皆六馬力水車運用ノモノ	一四〇〇〇
高壓蒸氣力運用ノモノナ	
レハ	二一〇磅
馬力運用ノモノナレハ	一一〇
颯扇一基	七〇〇
穀室用天坪一組	六〇〇
人力脱芒機一基	〇一〇〇
穀袋六十個 <small>一個ニ付價一〇 リシ六ヘンズ</small>	四一〇〇
輸囊車輪共	一〇〇
穀物ヲ充填セル囊ヲ起揚スル孤輪車二 輛 <small>一輛ニ付價 十〇リシ</small>	一〇〇

穀物ヲ充填スルニ用フル重量四個 <small>オモリ 一個ニ付</small>	〇	六	〇
價一〇リシ 六ヘンズ	〇	六	〇
鐵線製燕麥篩二個 <small>一個ニ付價 二〇リシ</small>	〇	四	〇
鐵線製大麥篩二個 <small>一個ニ付價二〇 リシ四ヘンズ</small>	〇	四	〇
鐵線製小麥篩二個 <small>一個ニ付價三〇 リシ三ヘンズ</small>	〇	六	〇
鐵線密篩二個 <small>一個ニ付二〇 リシ六ヘンズ</small>	〇	五	〇
粗穀篩一個	〇	二	〇
穀室用ノ長方椅一個	〇	三	〇
聚穀器一個	〇	一	〇
大ナル穀室用布一枚	〇	一三	〇
秤用布二枚	〇	七	〇

新式農書

農具

二六

農具



穀室用篋子六本	一本ニ付價	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
穀物杓子二本	一本ニ付價	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
囊ヲ縫フ針六本及綯絲一卷	三ツリ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
竈用壺及鐵鍋一個		一	五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
穀粉槽一個		三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
燕麥粉十セントウエー卜	一袋ニ付價九ツ	四	一	五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
刈者用「ラニケ」ト	二十八組	九	一	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
刈者用燕麥粥器六個	一個ニ付價	〇	一	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
生乳錫器六個	一個ニ付價	〇	一	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
小形麥酒桶六個	一個ニ付價	〇	一	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大形麥酒桶ノ架一個	三ツリ	〇	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

斧一挺		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
主籬者用斧一挺		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
鋸一挺		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
小木匠及泥工一ケ年半ノ賃銀		一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
借地状ヲ書スルニ付テノ費用佃戸ノ割												
前		一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
半ケ年ノ佃租	千八百六十九年	六	二	五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二百「エー」クルノ刈者賃銀	一「エー」クルニ付五ツリ	五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一ケ年半ノ臨時費		三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
小計		八	九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
總計		三	六	八	三	一	二	五	〇	〇	〇	〇



第三千二百七十八章〇以上ノ金額ヲ消費スルノ間ニ農場ヨリ左ノ産出物ヲ販賣セリ									
二ケ年ノ剪羊毛五百四十捲毛一捲毛ノ量六磅ニシテ即チ三千二百四十磅	一六二	〇	〇						
羊百五十頭	二六二	一〇	〇						
死羊二十頭	一〇	〇	〇						
肥腴牛二十頭	三〇〇	〇	〇						
豕	二〇	〇	〇						
乾酪五セントウエー卜									

一セントウエー卜ニ付五十リシ	二	〇	〇						
合計		七六六	一〇	〇					
出入金額ヲ差引残り金額		二九一	七	二	五				

農場ニ入タル後最初一ケ年半ノ間ニ現ニ新佃戸ノ手ヲ經タル金額ハ一「エー」ク「ル」ニ付七磅七「リ」シ「リ」四「ベ」ン「ス」ナレトモ佃戸ノ真ニ農場ニ費シタルハ一「エー」ク「ル」ニ付六磅十「ベ」ン「ス」ナリ但家内ノ什具ニ要スル金額ハ此外ナリ

農場家屋ノ建築ヲ論ス

第三千二百七十九章 農者ハ農場ノ全準備ヲナシ且入場ヲナシタル後其農場ヲシテ自ラ撰定セシ農事ニ



最良ノ方法ニテ管理スルノ外通常ナスヘキ了多カラ  
ス總シテ農者ハ農場ノ修整ヲナスモノ少ナシ然レハ  
或ハ新ニ農屋ヲ建築シ新籬ヲ設ケ利水法ヲ行ヒ鑿心  
土犁鋤法ヲ行ヒ且荒蕪地ヲ開墾スルモノアリ之乃チ  
悉ク爾生徒等ノ實施セサル可ラサルモノナリ農事ノ  
外ニ此事業中何レニテモ起サントスル者ハ慰勞ノ閑  
暇ヲ得ル了少ナシ余ハ生徒等總テ此事業ヲ起スモノ  
ト假想シ爰ニ列舉セシ順次ヲ以テ之ヲ論セントス第  
一ハ生徒ノ從事セント欲スル混同農五百エークルノ  
地ニ適スル農屋ニアリ

第三千二百八十章 農屋ハ其至當ノ使用ニ就テ考フ

レハ農場中便利ノ地ニ在ルヲ緊要トス道理上最モ便  
利トスルハ農場ノ中心ニ設クルニアリ何トナレハ幾  
何學ニ於テ環線内ノ各點其周邊ノ各部ニ最モ近キハ  
中心ナルヲ証ス然レモ實際上此理論ノ主義ヲ大ニ更  
變スルノ事情アリ之ヲ例スルニ若シ脱穀機ノ運用力  
ニ水ノ充分ナル供給ヲ容易ニ得ベキ處ニ在テハ馬ノ  
勞役ヲ省ク為メ稍遠ク且低下ノ地ニ農屋ヲ設クル了  
アリ或ル農者ハ周邊ノ田野ニ肥料ヲ下方ニ向テ運搬  
セント欲スルカ為メ農場ノ中心ニ近キ最高ノ部ヲ最  
良ノ地位トス他ノ農者ハ之ニ反シ中心ニ近キ最低ノ  
部ヲ撰フ但シ穀物及青菜ヲ下方ニ向テ運搬スルハ之



ヲ高キニ向テ運搬スルヨリモ勞力少ク且青菜及ヒ穀物ハ肥料ヨリモ重クレハナリ到底兩様共ニ重荷ハ農屋ヨリ運搬スルモアリ又農屋ニ運搬シ來ルモアルニ着眼セサルカ如シ之ヲ要スルニ農屋ヨリ峻坂ノアラサル地ハ總テ農屋ヲ設クルニ適スヘシ而シテ低地ハ高地ヨリモ稍便利ナリ但シ平地ハ輪車ノ通行容易ナルハ素ヨリ論ヲ待タス又水カノ外ニ都會或ハ鉄道停車場ニ通スル良好ノ道路アルハ農屋ヲ設クルニ宜シ庇蔭ノ便利モ亦撰フヘシ且揚水機ヲ以テ容易ニ充分ノ水ヲ得ヘキ地モ亦便宜ナリ蓋シ避クヘキノ土地ハ良好ノ基礎ヲ据エ且利水ヲ行フニ不便ナル堅岩ノ圓

丘、河湖ニ接近シ利水ヲ困難ナラシメ且基礎ニ濕氣ヲ誘導シ易キノ地又下層ニ強剛ノ植土アレハ居常濕潤ナリ弛緩ノ砂土ハ基礎ヲ堅牢ナラシメス且兩丘ノ間ニアリテ冒露セル地ハ沍寒大雨ノ害アリ皆宜シク注意スヘシ

第三千二百八十一章 抑モ農屋ハ穀物ヲ管理スルト畜類ヲ擁護スルトノ緊要ナルニ大場務ノ為メニ設クルモノナリ稿稈ハ農場中最モ大容ヲ占メ日々各種畜類ノ需用夥多ニ且重クシテ取扱ニ不便ノモノナレハ手ニテ少量ツ、運ヒ之ヲ各所ニ分配セサル可ラス故ニ之ヲ貯蓄スルニハ極メテ畜類ノ房舎ニ接近スルヲ



要ス是ヲ以テ之ヲ貯藏スル稿稈房ハ農屋ノ中央ニ設ク既ニ中心ヲ定メテ後自餘ノ房舎ヲ稿稈ノ需用ニ應シ其周圍ニ集置スヘシ脱稈機ハ禾ヨリ穀粒ヲ分離スルモノナレハ直ニ稿稈房ニ其稿稈ヲ送致シ易キ處ニ置クヲ要トス又脱稈セサル禾ヲ積置ク堆禾場ハ脱稈機ニ接セサルヘカラス斯ク稿稈使用ノ準備ヲナスノ措置ハ房舎ノ第一區ヲナス凡ソ稿稈ハ堆禾場ヲ出テ脱稈機ノ作用ヲ經テ直ニ稿稈房ニ移ルモノナレハ此一區ノ位置ハ堆禾場脱稈機及ヒ稿稈房ト皆一直線ニ列シ進行ノ時間ヲ省クヲ肝要ナリトス飼畜類ハ馬ヨリモ稿稈ノ需用大ナレハ其房舎ハ既ヨリモ近ク置ク

ヘシ各種異類ノ畜モ清潔安全ヲ得セシムルニ其稿稈ヲ要スルノ度量一ナラス故ニ稿稈最モ多キヲ要スルモノハ稿稈房ニ最モ接近シテ之ヲ置クヘシ都テ幼少ノ畜類ハ敷草ト飼草トノタメ稿稈ヲ要スルコト極メテ大ナリ且幼畜ハ保庇ノ為メ小舎ノ設ケアル庭場ニ置キ其庭場ハ必ス稿稈房ニ接近ナルヲ要ス之ヲ養フニ最モ便利ナルノ地ハ他房舎ノ配置ニ應シ稿稈房ノ兩側ニ一場或ハ一側ニ二場ヲ設クルヲ可トス此等ノ庭場ハ房舎ノ第二區ヲナス又幼畜二次テ稿稈ノ多量ヲ要スルモノハ較長シタル牛畜トス故ニ其「ハンメル」ハ稿稈房ノ近傍ニ設クヘシ「ハンメル」ハ殆ト一庭場ノ



地ヲ占ムルニヨリ之ヲ房舎ノ第三區トナス馬及ヒ牝牛ハ稿稗ヲ要スルコト極メテ少量ナレハ厩及ヒ牛舎ノ位置ハ稿稗房ヨリ最モ遠キニ在ルモ妨ケナシ而シテ工作用畜類ノ房室ハ農屋中蕃殖畜類ノ房舎ト隔離セシムルヲ要スルカ故ニ既ハ稿稗房ノ一側ニ設ケ牝牛舎及ヒ犢牛舎ハ他ノ一側ニ設クヘシ此等ハ房舎ノ第四及ヒ第五區ヲナス又脱稗機ノ位置ニ関シ定ムヘキ二室アリ其一ハ上室ニシテ是ハ堆禾場ヨリ來リ將ニ脱稗機ノ作用ヲ受ントスルノ禾ヲ容ル、貯ナリ其一ハ堆穀室ニシテ是ハ脱稗機ニテ脱シタル穀粒ヲ直ニ受ル所トス此兩室ハ必ス第一區ノ房舎内ニ設クヘ

シ穀倉ハ堆穀室ト直ニ接近スレハ脱稗シタル穀粒ヲ遠方ニ運搬スルノ勞ヲ省ク一明瞭ナリ且穀倉ハ馬ノ飼料及ヒ種子用ノ穀物ヲ多ク貯藏スル處ナレハ廣キヲ要ス故ニ堆穀室ノ兩側ニ設クヘシ而シテ穀物ハ濕氣ヲ避クル為メ地上ニ高ク板床上ニ積置クヲ要スルカ故ニ穀倉ノ床板下ハ稿稗房ノ兩側ニ在テ牛舎ノ屋上トナスニ便利ナリ稿稗房ハ長ク且廣キヲ要スレハ南北ノ方向ニ立テ牛場ノ日光ヲ障戾セサル様ニナスヘシ穀倉ハ堆穀室ノ兩側ニアレハ東西ニ向ヒテ建築シ牛場ヲ庇蔭シ北風ノ害ナカラシム且其前面ノ窓戸ハ南ニ向ハシムヘシ此穀倉ハ房舎ノ第六區ヲナス堆



禾場ノ如キハ必ス穀室及ヒ脱稈機ノ北ニ設置スヘシ  
 而シテ斯ク堆禾場ノ北面スルハ堆禾ノ温蒸ヲ防クニ  
 安全ナリ故ニ堆禾場ハ房舎中第七區ヲナス是ニ由テ  
 見レハ稿稈房ノ位置ヲ上文示ス如クスル所以ノ理ハ  
 單簡ニシテ且自ラ彰然タリ但シ各種大小及ヒ形状ノ  
 農屋ニモ適當スヘキモノナリ然レモ世人實際上之ヲ  
 適用スルモノ少ナシ此理ニ背馳スル益大ナレハ其農  
 屋ハ冬月畜類ヲ飼養スルニ當リ其房舎トナスニ愈適  
 便ヲ失フニ至ルハ予ノ保証スル處ナリ  
 第三千二百八十二章 何ヲ以テ正當ナル主義ニ基キ  
 農屋ヲ建築セサルヤ其然ル所以ノ理由ハ之ヲ建築セ

ントスルニ當リ雛形圖面ヲ出スノ建築工ハ實地上農  
 屋各種房舎ノ使用ヲ知ラス故ニ其位置ノ彼此相關涉  
 スルニ注意セス首トシテ最少ノ費額ヲ以テ築造セシ  
 ト欲シ最少ノ地區田野ニ於テ數尺ノ地ヲ内ニ同齊ノ  
 割合ヲ以テ房舎ヲ設ク素ヨリ建築ヲ欲セサルノ地主  
 又ハ自費ヲ以テ農屋ヲ造築スル佃戸ノ節儉ニ因リ止  
 ムヲ得サルニ出ルイモアレドモ畜類ノ飼養ニ至當ノ  
 需用ヲ考フルキハ到底良策ニアラサルヘシ例ヘハ供  
 給充分ナラサル牛畜ハ之ヲ結構宜シキヲ得タル庭場  
 及ヒ「ハンメル」ニ於ケルモノニ比スルニ冬月間ノ發育  
 一頭ニ付十「リ」ヲ減スヘシ今各異年紀ノ牛二十頭



ノ三群ニ付此減少ヲ算スレハ一ケ年三十磅ノ損失ト  
 ナル然レハ更ニ三十磅ノ資金ヲ増シ農屋ヲ建築シ措  
 置宜シキヲ得タランニハ此損失免ル、ノミナラス牛  
 畜ハ健全ニシテ良態ヲ保チ又牧草ヲ以テ肥腴ナラシ  
 ムルヲ得ヘシ都テ農屋ノ建築ニ注意ヲナサ、ルヨリ  
 シテ往々南方ハ全ク太陽ヲ遮ルノ方形内ニ牛場ヲ設  
 ク蓋シ方形ハ屋上ノ隅角ニ衝當スル寒風ヲシテ庭場  
 内ニ於テ旋回セシムルヲアリテ為メニ疾病ノ原因ト  
 ナルナリ

第三千二百八十三章 農屋ノ建築ハ一定額ノ金ヲ以

テ請負約定トナス可ラス何トナレハ若シ造営中ニ變

更ヲ加フレハ請負者ハ其機ニ衆シ非常ノ増金ヲ要ス  
 ルモ見積外ノ價格ナレハ素ヨリ之ヲ制スルノ權ナシ  
 其他泥工、木匠及ヒ石板葺工モ各別ニ一定額ノ金ヲ以  
 テ請負約定ヲナス可ラサルハ同一ノ理ナリ各種工事  
 ノ量ニ應シ請負者ト豫メ一ルード又ハ一ヤルドニ就  
 テノ價格ヲ約定スヘシ斯クノ如クスルキハ自ラ使用  
 セント農屋ヲ建築スル人若シ工事中ニ其實驗ト熟慮  
 トニ由テ按出セシ些少ノ變更ヲ原圖面ニ加フルノ權  
 カヲ有スルヲ以テ其人ノ意見ニ應シ工事ヲ成就スル  
 ノ便益アリ抑モ最初ニ圖面ヲ以テ看ルトキハ充分便  
 利ニシテ能ク目的ニ適スル如クナレトモ數多ノ細件



ニ至テハ圖中或ハ遺漏スル處ナキ能ハス請負者ハ其  
 經營シタル工事ニ付テ金高ヲ拂ハル、ニ於テハ敢テ  
 不平ヲ鳴スノ理ナシ蓋變更ヲ為ント欲セハ至當ノ時  
 ニ於テ告ケサル可ラス而シテ建築落成ノ上双方ニテ  
 一名ノ測量者ヲ撰定シ工事ヲ測量シ約定ノ價格ヲ以  
 テ諸部ノ價ヲ算シ諸工事ニ係ル價金ノ報告ヲ作ラシ  
 ム此總金額ハ即チ農屋建築ノ費額ナリ工事中約定ノ  
 時期ニ於テ請負人ニ内金渡ヲナス方法ニ由テ農屋ヲ  
 低價ナラシムルコトナク一定額ノ金ヲ以テ請負ハシム  
 ル尋常ノ方法ヨリモ却テ高價トナルコトアリ然レモ  
 緊要ニ非スト察セラル、ノ箇所ヲ省除セハ低價ナラ

シムルヲ得ヘシ之ヲ要スルニ農屋ヲシテ已レノ意ニ  
 適セシムルノ便益アリ予ノ農屋中便宜及愉快ヲ得ル  
 ニ至要トスル處ハ左ノ如シ例ヘハ厩又ハ牛舎ニ一尺  
 或ハ以上ノ長サヲ増スルハ其飼畜ノ側方ニ二三寸ノ  
 餘隙ヲ得テ更ニ安泰愉快ヲ享受セシムルニ至ルヘシ  
 窓戸ハ寒冷ナル北方ニ面セスレテ温暖ノ南方ニ向テ  
 開設スルヲ良トス又屋上ニ天窗ヲ設ケテ暗黒ナル所  
 ニ充分ノ光明ヲ容ラシメ水竇ヲ増設シ濕氣及ヒ汚物  
 ヲ排除セシムルヲ要トス此等ヲ排除セスレテ放抛ス  
 ルハ大害ヲ招クヘシ又一方ニ戸ヲ開扉スルヲ止メ  
 他方ニ開カシメ以テ大氣ノ流通ヲ損害ノヲラサル處



ニ向ハシムル一窓蓋ハ兩扉トナスヘシ一枚トナセハ  
室ヲ陰鬱ナラシム戸扉ハ縱ニ作ルモノヨリモ横ニ作  
レハ其房舎ニ畜類ノ濫入ヲ防クニ安固ナリ此等及ヒ  
之ニ類スル許多小事ノ便利ハ農屋ノ建築中ニ斟酌増  
減シ得ヘキナリ若シ以上ノ事ニ注意セサレハ農屋モ  
大ニ其便益ヲ欠クニ至ルヘシ農者或ハ約定ノ金額及  
ヒ圖面ニ由テ束縛セララル、コトアラハ必ス此便利愉  
快ヲ欠ク丁愈大ナルヘシ

第三千二百八十四章 農者ノ住家ハ甚ク農屋ニ接近  
ス可ラス又之レヨリ隔絶ニ過ク可ラス且農屋ノ前面  
ニアリテ後面ニアル可ラス方向ハ北方ヨリモ南方ヲ

可トス其基礎乾燥ニシテ少シク高處ニアリ田野ヲ俯  
觀シ農事ヲ一目シ得ルノ地位ヲ撰フヘシ必ス低地ニ  
設ク可ラス水ハ家中日用ニ缺クヘカラサルヲ以テ水  
利ノ便ヲ計ルヲ要ス又天然人工ヲ論セス庇蔭ヲ要ス  
且作工場ハ能ク利水法ヲ施スヘシ

第三千二百八十五章 農僕ノ住舎ハ犁夫ノ為メニ設  
ケサル可ラス此舎ハ農屋ニ接近セシムルモ日常ノ通  
路ヲ外レ少クモ二室トナス而シテ舎ノ廣狹ハ總テ同  
一ノモノトナスヘカラス且室數モ各異アリテ家屬ノ  
多少ニ適應スルヲ要トスヘシ此等ハ地主及ヒ佃戸ノ  
往々注意ヲ盡サ、ル處ナリ蓋シ多人數ノ家族ヲ一室



ノ小舎ニ入レ一夫一婦ノモノヲ三室ノ舎ニ住居セシムルハ不便ニシテ共ニ其家族ノ安寧ヲ妨クルナリ舎ノ位置ハ乾燥ニシテ南方ニ面シ各舎ニ能ク水竇ヲ設クヘシ舎ノ床ヲ地ヨリ一階高クナス井ハ大ニ快爽ナリトス且大舎ノ前後ニ入口ヲ設クレハ室内ニ大氣透過シテ不快ナラシム

第三千二百八十六章○清水ノ供給ハ農屋住家僕舎及ヒ田野ニ於テ飲料ニ欠ク可ラス故ニ水ノ供給ニハ何等ノ費用ヲモ厭ハス井ヲ鑿掘スヘシ若シ其近傍ニ於テ水ヲ得難ケレハ遠地ニ井ヲ穿テ水管ヲ以テ屋舎ニ導クモ可ナリ泉水ノ高處ニアルハ水管ヲ設クレハ水

其重力ニ由テ落下シ来ル低地ニアルモノハ強壓唧筒ヲ用ヒテ水ヲ屋舎ニ昇ラシムヘシ然レトモ低處ニ溪流アレハ起水機ノ作用ニ由テ其水高處ニ昇リ来ルヘシ土地ノ下層ハ何種ヲ論セス大抵ハ水ヲ與ヘサルナシ但シ其種類ニ由リ深淺ヲ異ニス就中定形ナキ磐石及ヒ粗鬆ノ砂土ハ開鑿ニ困難ニシテ且費用大ナリ礫心土ハ清水ヲ出シ耕壤ノ如キ脂膩ノ埴土ハ尋常ノ深處ニ於テ水ヲ得ルコト難シ然レトモ通常大河又ハ河口ニ瀕スルヲ以テ河底ノ深サニ穿ツキハ砂ニ達シ水此砂ヨリ井中ニ涌出ス河口ノ水ハ鹹味アルモ砂ヲ經過シ日常ノ用ニハ充分ノ良水トナル砂石ノ如キ層ヲ



ナスノ磐石ハ六尺乃至八尺ナル適中ノ深サニ於テ水ヲ得ルモ定形ノ層ニ在テハ上面ヨリノ斜層ニ於テ水ヲ得ルモ下底ノ斜層ニ於テ水ヲ得サルアリ地層中必ス水ヲ得ヘキモノハ洪水埴磐ナリ而シテ王國內ノ耕地多クハ此土ヲ以テ心土トス此埴土ハ自ラ水ヲ透過セシメサルモ往々雲母ヲ混スル砂土ノ小脈絡横斷シ數多ノ小石其間ニ撒在スルヲ以テ常トス故ニ此小石ヲ除クキハ其處ヨリ水滴瀝シテ八尺ヨリ少カラス十六尺ヨリ多ラサル深サニ開堀セル井中ニ溜積ス然レモ埴土一齊同質且剛硬ニシテ水分ニ乏シキ片ハ四十尺以上ノ深サニ開鑿セサレハ水ヲ得ルヲ難シ

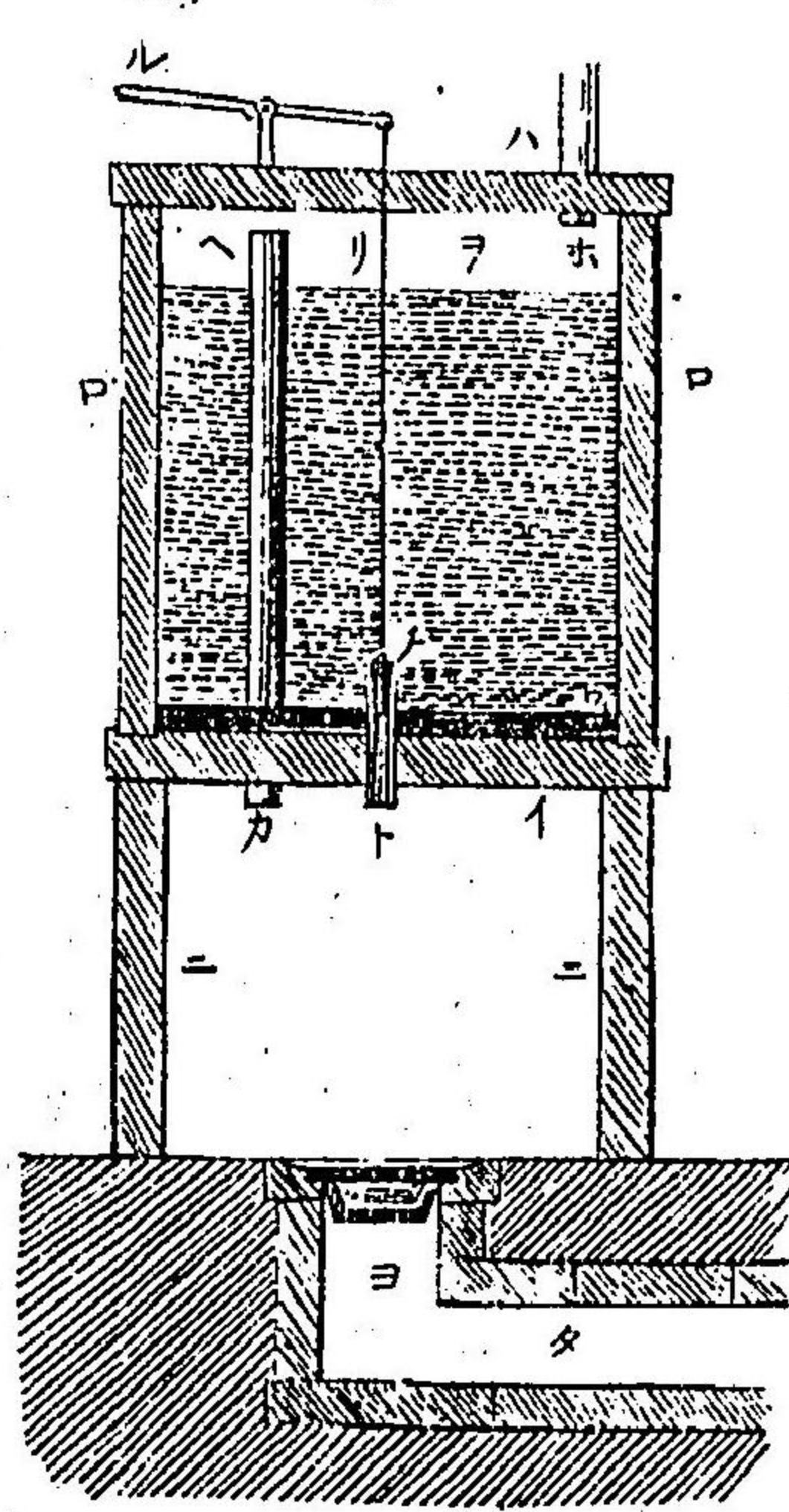
第三千二百八十七章○今小石ヲ混シ且砂脉ノ横斷スル埴土中ニ井ヲ開鑿スルトセハ直径八尺ノ圓形ヲ地面ニ畫シ此ヨリ表土ヲ堀採リ雜糞ノ用ニ供スル為メ他處ニ移ス而シテ歛ニテ八九尺ノ深サニ堀起シタル後捲轆轤ト索及ヒ槽ヲ装置シ井中ノ土ヲ引揚クヘシ鑿堀ヲナス間ニ扁石ハ轆轤ノ傍ニ積置キ井筒ヲ築クニ用フ井筒ハ直径三尺ヲ以テ足レリトス井筒ト埴土トノ間ハ石塊ニテ充填シ井筒ハ上端直径二尺ニ縮少セシムベシ既ニ其築造落成レハ井底ニ聚滯セル水ハ少量ナレハ桶ニテ汲取り大量ナレハ唧筒ニテ汲盡シテ井底ノ泥土及ヒ石礫ヲ掃除スルニ便ナラシム而シ



テ厚キ扁石ヲ井側ノ地上ニ置キ其石ノ頭ヲ少シ凹ク  
 鑿リ木製唧筒ノ端ヲ安置スルノ處トナス井筒ノ上ニ  
 大ナル扁石ヲ覆ヒ此ニ木製唧筒ノ体ヲ容ル、孔ヲ穿  
 チ地面ヨリ少シ低ク埋ム鐵製唧筒ノ鉛管ハ此大扁石  
 下ニ通シ井底ニ於テ其曲端ヲ石上ニ安置ス然ル後扁  
 石上ヲ埴土ニテ被覆シ唧筒ノ前面水桶ヲ置ク地上ニ  
 平滑ノ扁石ヲ敷キ以テ唧筒ヨリ水溢出シ土地ヲ洗流  
 スルヲ防ク是ニ於テ工事ヲ成就ス

第三千二百八十八章○農家ニ於テ日常家用ノ為ニ兩  
 水ヲ溜溜スルヲ要セハ第四百五十三圖ノ兩水槽ヲ必  
 需トナス此器ハ沈澱ノ泥渣ヲ攪動スルヲナクシテ純

第四百五十三圖  
兩水槽



- イ口ハ木造又ハ石造ノ槽
- ハ木造ノ蓋ニハ石ノ架木
- ハ雨水管ハ減水管ハ銅
- 管子ハ塞栓リハ鉄杆ルハ槌
- ヲハ水面ワハ泥ノ深サカハ
- 洗浄口ヨハ通氣架夕ハ暗渠

水ヲ流出セシムルモノニシテ石造アリ木造アリ其容  
 積十八立方尺廣キ部ノ兩側ヲ高サ二尺ナル二個ノ石  
 上ニ安置ス此槽ヲ匾石ニテ作ルニハ側片ハ五ニ邊緣  
 ニ彫タル溝ニ箱メ復之ヲ底ノ邊緣ノ溝ニ箱メ白鉛ニ  
 テ着合シ鉄具ヲ施シテ固定シ木蓋ヲ設ク又木材ヲ以  
 テ製スルアリ其隅角ヲ水ノ洩テサル様ニ着合シ木蓋  
 ヲ設ケ石ヲ架トス風雨ニ暴露シ置クニハ木製ヨリモ



石造ハ堅牢久シキニ堪フルヲ以テ最モ良トス中空ノ銅管アリテ真直ニ底ニ固定ス其下端ハ底下ニ突出スル一一寸又上端ハ底上ニ出ル一三寸ナリ此銅管ノ上端ハ銅ノ尖截圓錐ヲ受ルノ形トナス此ハ管口ノ塞栓トナル銅杆ヲ附シ蓋ノ孔ヲ通シ鐵挺ニ接続ス故ニ鐵挺ニテ開閉スルナリ此栓ニハ脂ヲ塗り水ノ洩レサル様ニナス鐵挺ノ支柱ハ蓋ニ固定ス此等ハ悉ク銅ニテ作り水ニテ腐蝕スルヲ防ク但シ挺ハ鐵製ニシテ塗油ヲ施ス雨水ハ蓋孔ニ通スル管ニテ槽内ニ入ル水増加シ溢レントスル片鉛製ノ減水管ヨリ流出ス此管ハ洗淨口中ニ箱入シ動移意ノ如シ又洗淨口ノ管ノ上端ハ

槽底ト平面ナラシム雨水槽中ニ入りタル後泥渣ヲ沈ムル為メ静止セシム泥渣集積シテ栓ノ高サニ至レハ蓋ヲ開キ減水管ヲ除キ洗淨口ヨリ泥渣ヲ去リ槽ヲ清淨ナラシム減水管ヨリ流出ノ水ハ通氣架ヨリ暗渠ヲ經テ去ル十八立方尺ヲ容ル、石造雨水槽ハ其架共ニ代價殆ト五磅ナリ此製ノ雨水槽ハ槽底ニ沈澱スル泥渣ノ不導體ナルニ因リ塞栓周邊ノ水凍結スル一ナキヲ以テ予ハ之ヲ讚美ス時トシテ水面ノ氷結スル為メ銅杆固着シテ動カサル一アリ因テ漏斗ヲ用ヒ蓋孔ヨリ杆ニ浴フテ温湯少許ヲ注入スレハ速ニ活動スヘシ

第三千三百八十九章○日常家用ニ供スル水ニ硬軟ノ



差アリ即チ泉源ノ水ハ大抵硬澁ニシテ河水ハ久シク  
 大氣ニ冒露シ硬性ノ物質ヲ沈澱スルヲ以テ軟柔ナリ  
 水中ニ粗硫酸石灰石膏又ハ炭酸石灰ヲ溶解含蓄スルキ  
 ハ其量僅少ナルモ氣味硬澁ナリ水ハ石膏ヲ溶解スル  
 一其量ノ五百分一トス然レドケルトン氏ノ説ニ據レ  
 ハ其千分一ヲ含メハ既ニ硬味ヲ生スルニ足レリカウ  
 ンダス氏曰ク炭酸ヲ含ムノ水千二百ゲレイン中石灰  
 一ゲレインヲ溶解スト石灰ハ純水ニ溶解セサルモ水  
 中炭酸ヲ含ムトキハ之ヲ溶解ス蓋シ石鹼ヲ解クニ溶  
 和セスレテ分離作用ヲ起スノ水ハ硬性ナリトス軟水  
 ハ石鹼ヲ分離スルコトナク容易ニ之ト抱合シ且之ヲ

溶解ス硬水ハ茶ヲ煎シ野菜ヲ煮ル等數多ノ厨服用ニ  
 軟水ノ如ク適セス故ニ水ノ硬軟ヲ檢知スルヲ必要ナ  
 リトス一大盃ノ清水ニ白石鹼ノ薄片少許ヲ投スル  
 ニ白色雪片又ハ乳餅ノ如キ分子ノ石鹼ニ附着スルハ  
 硬澁ノ徴ナリ之レ即チ分離作用ニシテ水中ニ含有ス  
 ル塩類ノ酸ト石鹼ノ亞爾加里ト抱合シ脂分ヲ遺留ス  
 ルナリレイド氏曰ク其硬性ハ石灰ヲ含ムニ由ルカ又  
 石膏ヲ含ムニ由ルカヲ見出サンニハ左ノ舎密的試験  
 ヲ施用スヘシ硝酸重土ノ溶液ハ石膏又ハ石灰ヲ含ム  
 水ニ注ケハ白色ノ沈澱物ヲ生ス若シ其水中ニ石灰ヲ  
 含ムモノハ純清硝酸數滴ヲ加フレハ其沈澱物再ヒ溶



解シテ清液トナル石膏ヲ含ムモノハ其沈澱物硝酸ニ  
 テ溶解スルトナシ鉛糖ノ溶液モ亦上ト同シク施用ス  
 ルヲ得レド硝酸重土ヲ用フルヲ可トスト實際上硬水  
 ヲ治スルニ滾沸スレハ石灰ヲ去ル水中過量ノ炭酸ハ  
 氣状体ト變シ炭酸石灰ハ不可溶質トナリ器底ニ沈下  
 スルナリ蓋シ茶罐ノ内面ニ土質凝着スルハ之ニ因ス  
 若シ石膏ヲ含ムカ為メ硬澁ナル片ハ真珠灰又ハ曹達  
 炭酸剥篤亞斯少許ヲ加フレハ之ヲ消除ス即チ水中ノ  
 又ハ炭酸曹達石灰ハ真珠灰又ハ曹達ノ炭酸ト抱合シテ沈底ス飲料  
 用ノ水ハ尋常含蓄スル瓦斯及ヒ塩分ノアラサル片ハ  
 無味ニシテ且嘔味アリ此瓦斯ト塩分トハ天然ノ加味

物トナリ且燦色ヲ與フルモノニシテ其好味ヲ増シ胃  
 ヲ健全ナラシムルノ効用アリ滾沸シタル水ニ他物ヲ  
 混セスレテ之ヲ飲ミ嘔味アルハ世人ノ知ル處ナリ  
 第三千二百九十章○前文既ニ飲水ヲ論セシヲ以テ飲  
 馬池ノ築造方ニ付更ニ一言セントス小溪流ノ農屋ヲ  
 經過スルアレハ馬ニ水ヲ飲マシムル為メ池ヲ造ルニ  
 便ナリ而シテ其水常ニ清潔ナルヘシ若シ溪流ナキ處  
 ハ埴土中ニ池ヲ掘ラサル可ラス然ルトキハ管ヲ設ケ  
 テ遠方ノ水源ニ求ムルニアラサレハ其水汚穢ナリ心  
 土若シ石礫ナレハ水ヲ漚溜スルニハ粘土ニテ之ヲ塗  
 ル其法左ノ如シ若干ノ粘土ヲ木槌ニテ能ク搗キ之ニ



其容ノ四分一ナル軟化石灰ヲ混和シ虫ノ孔ヲ穿ツヲ防ク而シテ暫時熟セシメタル後球塊トナシ池ヲ造ラントスル地上ニ強ク投着シ木槌ニテ打固メ或ハ足ニテ踏固メ厚サ六七寸ノ被層トナシ猶ホ柔軟ナル間ニ其表面ニ清淨ナル砂礫若干ヲ撒布シ打込ム若シ其池廣大ナルカ為メ全池ニ遍ク礫ヲ打込マサル前ニ被層ノ粘土乾燥硬固スルノ患アルキハ粘土ヲ塗ルニ從ヒ漸次ニ礫ヲ打込ムヘシ礫層ノ上ニハ馬蹄及ヒ水勢ニ抗スヘキ石砂ノ固牢ナル路ヲ敷ク予曾テ池ノ一方ヨリ馬ノ入りテ他一方ニ渉ル如クニ兩方ニ口ヲ作ルヲ見タリ此ハ馬ヲ自由ニ通過セシムルノ便アレトモ側

方ハ墻圍スルヲ以テ最初水ヲ飲ミニ来レル雙馬ハ其口ノ殆ト全幅ヲ占ムル故ニ逐次来レル雙馬ハ前馬ノ後踵ニアリテ泥水ヲ飲マサル可ラス且墻圍ハ馬ノ回轉ヲ妨クルニ由リ彼岸ノ口ニ於テ他馬ヲ飲マシムルコト能ハス然レハ一方ヲ墻圍シ他ノ一方ヲ全ク開キ置クラ可トス又空地充分アレハ周圍ヲ悉ク開放シ上端ニ於テ清水ヲ受ケ下端ヨリ濁水ノ流出スルヲ最良トス此池ニ在テハ群馬列ヲナシ池頭ニテ水ヲ飲ミ且飲水ノ後各自ニ渉リテ脚ヲ洗フヲ得ヘシ飲馬池ハ其膝ノ高サヨリ深クセスシテ其水馬ノ腹ニ達スルナキヲ要トス犁夫ハ馬ノ腹肋マテ深ク入レテ自ラ洗淨



ノ勞ヲ免カレントヲ欲スレトモ馬脚毛ノ厚ク生スル部ヨリモ深ク池ヲ造リ以テ馬ノ健康ヲ害スルカ如キ危険ヲ冒スノ理アラシヤ

第三千二百九十一章〇農場ノ建築ニ付テハ上文記スル所ノ外更ニ論スヘキモノナシ予ハ冬月各種ノ畜類ヲ容ルヘキ農場ノ房舎、禾類ヲ脱稈シ穀物ヲ市場ニ輸スルノ準備ヲナス室及ヒ住家ノ作工場、僕舎ノ房室ヲ解説セリ又農屋、僕舎等ノ築造法、材料及ヒ建築明細ハ予既ニ農場建築書ト題セル冊子中ニ於テ詳細論明シタレハ學者宜シク就テ参考アルヘシ

火災病災ノ保險ヲ論ス

第三千二百九十二章 農者其器財、畜類及ヒ毎年ノ作物ニ付火災ノ保險ヲナサシムルヲ怠ルハ甚ダ拙策ナリ凡テ農者其所有ノ器財ハ悉皆保險ナサシムルヲ良トス若シ火災ニ罹ルキハ未タ家屋ノ焼落サル前既ニ器財ハ悉ク焼失スル患アルヘシ其作物及ヒ畜類ノ如キハ火災アルモ悉ク焼失セラル、コト少ナレ方今家屋及ヒ器財六百磅ノ價ハ一ケ年十三「シ」六「ペン」スノ保險料ヲ以テ保險ナサシムルヲ得ル之レ農者ノ惜ムニ足ラサル金貨ナリ方今政府ノ課税ハ全ク廢止サレタリ而シテ保險社ニテ穀物及ヒ畜類ノ火災保險料ハ百磅ニ付五「シ」リニ騰貴セリ必竟農屋ニ於テ吹烟



シ且擦燧ヲ粗略ニ使用スルヨリシテ往々火ヲ失スル  
 一アルニ依ルナリ蓋シ家屋住家、農屋及ヒ僕舎ハ地主ノ所有ナ  
 レハ佃戸ハ其保險料ヲ拂フニ付地主ト約定ヲナスヘ  
 シ穀物及ヒ畜類ハ佃戸ノ有ナレハ自ラ其保險ヲ負担  
 セサル可ラス

第三千二百九十三章 予茲ニ厩ノ失火スル片馬ヲ厩  
 外ニ曳出ス最良法ヲ記ス夫レ馬ハ其性膽小ニシテ火  
 ヲ見ルトキハ畏懼シ厩外ニ出ルヲナサス其内ニ留リ  
 テ動カス故ニ馬ヲ厩外ニ出サントスル人ハ其蔽衣ヲ  
 脱シ或ハ囊又ハ稗布ヲ採リ馬頭ニ之ヲ着セ其目ヲ蔽  
 フ并ハ口ヲ取り容易ニ牽出スヲ得ル牛モ亦牽カル、

ニ馴レタル者ハ同シク曳出スヲ得ヘケレトモ飼養ノ  
 モノハ斯ク輒スク曳出スヲ得ヘキヤ予ハ之ヲ疑フナ  
 リ

第三千二百九十四章 予ハ堆禾場ノ火ヲ失シタルキ  
 救火水車ヲ農屋ヨリ曳来ルノ距離ヲ考フルニ果シテ  
 其全焼失ヲ免カル、ヤヲ保シ難シ家屋ハ多ク互ニ隔  
 離スルヲ以テ之ヲ救フハ易シ予千八百六十八年ニ於  
 テ一種ノ消火器ヲ見タリ此器ハ人ノ背ニ負フタル扁  
 桶中ナル一種ノ液汁ニテ火焰ヲ消滅スルナリ此器ヲ  
 試験スルニ當リ為メニ設ケタル薪木ノ大火ヲ二三分  
 時間ニ消滅セリ防火ノ為メ此器ヲ使用ノ用意ヲナシ



家屋中ニ備ヘ置クヲ便益トス但シ器械一個ノ價僅ニ  
 二磅十<sup>1</sup>シ<sup>1</sup>ニシテ其液汁ハ容易且安價ニ製スルヲ  
 得ル予カ屢々實視スル人力運用ノ救火水車ハ水小管  
 ヨリ噴出シテ其末散開スレヲ以テ防火ヨリモ却テ火  
 勢ヲ助クル<sup>1</sup>アリ蓋シ大ナル熱度ノ為メニ散開スル  
 水ヲ二元素ニ分離セシム其一ハ水素ニシテ非常ノ可  
 燃性ヲ有シ一ハ酸素ニシテ焚燒ノ為メ無二ノ獎勵物  
 ナリ焚燒ヲ消滅スルニ適切ノ効アルハ獨リ熱氣ノ鎮  
 靜物ニアリ蒸氣運用ノ救火水車ハ其噴出スル強勢ノ  
 水固ヨリ焚燒ヲ制止スルノ力アルモ斯ク多量ノ水ニ  
 由テ甚大ナル害ヲ生スルコト往々之レアリ

第三千二百九十五章 牛群中ニ<sup>1</sup>プリューロ、ニューモニア<sup>1</sup>  
 又群羊中ニ痘瘡大ニ流行シ比々其害ニ罹リシニヨリ  
 千八百四十四年倫敦ニ於テ一ノ家畜保險會社ヲ設立  
 シ以テ畜類ノ疾病ニテ斃ル、損失ヲ農者ノ為メニ保  
 險セリ數年前蘇格蘭ニ於テ同一ノ目的ニテ一會社ヲ  
 設立セント圖リシモ成就セサリシ倫敦家畜保險會社  
 ノ規則ニ由レハ保險ヲナサシメントスルノ畜類ハ會  
 社ヨリ検査人ヲ差遣シ検査ヲ遂ケシメ其評價ニ由テ  
 保險料ヲ拂フ牛畜尋常ノ症ニハ一磅ノ價ニ付保險料  
 四<sup>1</sup>ペンスト四分三<sup>1</sup>、<sup>1</sup>ポル<sup>1</sup>、<sup>1</sup>ロ、<sup>1</sup>ニューモニア<sup>1</sup>症ニハ一磅  
 付六<sup>1</sup>ペンストナリ山地產ノ畜類ハ特別ノ約定ヲ以テ保



險料ヲ定ム都テ六ヶ月以下ノ畜類ハ保險ヲナサス農事ニ使用スル馬ハ一磅ニ付七<sup>」</sup>ペン<sup>」</sup>ト四分一以上ヲ拂ヒ備馬及馬車ニ使用スル馬ハ一磅ニ付八<sup>」</sup>ペン<sup>」</sup>ト半、曳馬ハ一磅ニ付九<sup>」</sup>ペン<sup>」</sup>ト半以上ヲ拂フ乗馬ハ一磅ニ付一<sup>」</sup>リ<sup>」</sup>以上<sup>」</sup>ク<sup>」</sup>ラ<sup>」</sup>ン<sup>」</sup>デ<sup>」</sup>ル<sup>」</sup>症ニ罹レル馬ハ特別ノ約定ヲ以テ決ス而シテ畜類ノ主ハ損失ヲ蒙ルトキ保險料ヲ拂フタル價格ノ四分三ト残り四分一ハ皮革及ヒ死体ノ賣金ヲ以テ受取ル又一定ノ規則ニ由リ代リク畜類ヲ受取ルノ約定ヲナスヲ得ル該會社ノ本局ハ倫敦ノストランドニ在リテ國中諸處ニ支店ヲ設ク

第三千二百九十六章 千八百四十年以後ストランド

ニ在ル倫敦火災保險會社ニテ農者ノ作物、霰雹ノ害ニ罹レル損失ヲモ亦保險ス英倫ニ於テハ時トシテ殊ニ温室ノ栽植ヲ業トスル者ニ霰雹ノ大害ヲナスコトアレトモ蘇格蘭ニ於テハ此類ノ損失ヲ蒙ルコト罕ナリ然レトモ千八百五十年ノ秋ニハフアル<sup>」</sup>ア<sup>」</sup>ール<sup>」</sup>シ<sup>」</sup>ール<sup>」</sup>ノ一部ブレチン府ノ近傍ニ於テ霰雹ノ暴風アリテ將ニ刈收セントスルノ作物ニ大害ヲナセリ

第三千二百九十七章 牝牛<sup>」</sup>苦<sup>」</sup>樂<sup>」</sup>ハ損失保險ノ一種ナレトモ家畜保險會社ハ此苦樂ヲ壓倒センカ為メニ設ケタルモノナリトス牝牛苦樂ノ設立アリシヤ牝牛ヲ所有スル役夫及ヒ農夫ノ大ニ同心協力スル處トナレ



リ蓋シ此輩ニ在テハ胎兒ノ分娩又ハ疾病ニ由テ牝牛斃ル、コトアラハ其損失實ニ重大ナリ予曾テ農夫ノ首トシテ其大ナル一家族ノ扶持ヲ依頼セシ牝牛ヲ失フタルカ為メ大ニ貧窮困苦ニ陥リタルヲ見タリ左ニ舉クルモノハブロックスベイ及ヒリツルラムブル牝牛若樂ノ社則ナリ該苦樂ノ目的トスル處ハ其社員協救ノ制ニ基キ牝牛ノ死亡ニ由テ生スル損失ヲ均シク全社員ニ分頭シ之ヲ專ラ一人ニ負ハシメサルヲ保スルニアリ一名ノ主事者ヲ撰ヒ苦樂ノ事務ヲ管理セシメ且社員ノ加入ヲ此主事者ノ決斷ニ任ス各社員ハ其加入セシメタル牝牛一頭ニ付一シリンノ掛銀ヲ前金ニ

テ毎月初ノ土曜日ニ於テ主事者ニ納ム而シテ社員ハ其牝牛ノ斃ル、トキ苦樂ヨリ一頭ニ付十磅ノ金額ヲ受取ルノ権アリ十二歳以上ノ牝牛ニハ各社員共ニ手當ヲ給スルヲナシ一牝牛斃ル、キハ其皮革ハ飼主ノ有ニ歸スルモ屍ヲ賣却シ得ル片ハ其賣金ヲ苦樂ノ資金ニ差出サ、ル可ラス若シ牝牛見テ産ミ斃ル、片ハ犢牛ハ飼主ノ有ニ歸ス社員三月間掛銀ヲ怠レハ苦樂ヨリ利益ヲ得ルノ権ヲ失ヒ既納ノ金額ヲ没收セラル社員区内ヲ去リ又ハ飼牛ヲ止ムルキハ社ノ資金中ヤルボロウ公ヨリ苦樂設立ノ資金ニ寄附アリシ二十磅ヲ引去リ各社員ニ就テノ割合ヲ主事者ヨリ受取ル丁



ヲ得ル新ニ加入ヲ請フノ人ハ其加入セントスル牝牛  
 一頭ニ付同シクヤルボロウ公ノ寄附金ヲ除キ苦樂中  
 ノ牝牛各頭ニ付全資金ノ割合ニ應スル金額ヲ納メサ  
 ル可ラス又斃牛比々アリテ主事者ノ所管スル資金ニ  
 テ支給スルニ足ラサルハ社負直ニ其不足ヲ補フナ  
 リ若シ主事者ノ手ニ有スル資金次第ニ増加シテ保險  
 ニ充分ナリト思考スルトキハ主事者ノ見込ニ由リ死  
 亡又ハ其他ノ事故ニ支出シ漸ク減少スル迄ハ毎月ノ  
 掛銀ヲ止ムルヲアリ且毎年一月一日ニ於テ主事者ハ  
 前年間ノ出納及ヒ殘金ノ計算ヲナシ之ヲ印刷シテ各  
 社負ニ一冊ヲ送致ス該苦樂ノ約款ニ由テ之ヲ見レハ

此類ノ苦樂ハ其事業ノ區域ヲ必ス限レルモノナリ

墻圍及ヒ保庇ヲ論ス

第三千二百九十八章 耕地ト牧場トヲ混同スルハ  
 其間ニ必ス藩籬ナカル可ラス藩籬ハ畜類ヲ牧地上ニ  
 閉圍シ以テ其耕地ニ濫入スルヲ防止ス夏月畜類ヲ飼  
 養セサル耕壤農及ヒ都府近傍ノ農又ハ大ナル牧地ヲ  
 有スル牧農ニ在テハ分隔籬ヲ要スルコトナシ此種ノ  
 農ニハ唯境界籬及ヒ時トシテ農場ヲ通過スル街道ニ  
 沿フテ墻籬ヲ設クルヲ以テ足レリトス實際ニ於テ耕  
 壤農ハ全ク藩籬ヲ設クルヲ罕ナリ之レ貴重ノ土地ヲ  
 藩籬ニ費スヲ惜ムニ由ル然レハ此理ヲ以テ街道ヲ論



ス可ラス街道ハ行旅ノ田野ニ濫入ノ患アリ酪農及ヒ  
 混同農ハ田野ヲ各區ニ分畫スルヲ要ス  
 第三千二百九十九章 境界籬ヲ設クルノ地位ハ同領  
 地内ニ農場間ノ境界或ハ相接スルニ領地ノ境界タレ  
 ハ容易ニ定ムルヲ得ルニ領地相接スル處ニ在テ境界  
 籬ハ雙方ノ地主ニテ互ニ修理ヲ加フルヲ常慣トス  
 第三千三百章 分隔籬ハ埴土砂土ノ如キ土壤ノ種類  
 ニ應シテ設ク之ヲ設クルニハ壑場ノ方向ニ由テ決ス  
 ヘシ壑場ハ兩側トモ同等ニ太陽ヲ受ケシムル為メ居  
 常南北ノ方向ヲ以テスヘシ平坦ノ地ニ於テハ此方向  
 ヲ以テスルハ為シ易シ然レモ高地ノ東西ニ斜傾スル

アリテ地面ニ溜滯スル水ハ少時間タリトモ害ヲナス  
 丁大陽ノ光線ノ壑場ニ利アルヨリモ却テ大ナレハ爰  
 ニ於テ壑場ノ方向ハ土地ノ斜傾ニ從ヒ地面ノ水ヲ速  
 ニ流下スルヤウニ作ルヲ要ス土地若シ南北ニ斜傾ス  
 ルハ子午線ノ方向ヲ採ルヘシ其斜傾混雜一定セザ  
 ルハ成ルヘク多分ナル壑場ヲ南北ノ方向ニ作ル總  
 テ藩籬ハ壑場ニ平行ニ作ルヘシ此平行ヲ錯ルトキハ  
 田野ノ一端或ハ兩端ニ於テ楔形ノ壑場即チ「バット」ヲ殘  
 ス此地ハ四邊ノ長サ不同ナルヲ以テ同面積ノ平方ナ  
 ル地ヨリモ工作ヲ施スニ時ヲ費ス多シ故ニ「バット」ハ  
 田野ニ於テ甚タ之ヲ忌ム然レモ一農場ノ各田野悉ク



全長平行ノ墾場ヲ得ルハ實際上罕ニシテ「バット」ハ地形ニ由リ免レ難キモノトス是ヲ以テ「バット」ハ成ルヘク農場ノ邊隅境界ノ地ニ限ルヘシ而シテ田野ノ耕鋤ヲ齊整同形ナラシムル為メ藩籬ハ勉メテ直線ニ平行セシムヘシ圓ナル丘脊ニ沿フテ作レル直線ノ藩籬ハソノ南北ノ方向ヲナスト東西ノ方向ヲナストニ論ナク兩側ニ最良ノ保庇トナル都テ高處ヲ占ムルノ藩籬ハ他處ニ設クルモノヨリモ田野ニ保庇ヲ與フルト大ナリ故ニ藩籬殊ニ荆棘ノ生籬ヲ設クルニハ常ニ此地位ヲ撰フヘシ然ルルハ凹處ニ於テ深雪ノ為メニ壓壞セラレ、ノ患ヲ免ルヘシ然レド田野ノ下端ハ往々直線ヲ

以テ墻圍シ能ハサルノ形状ヲ顯ハス即チ二個ノ高起セル土地間ノ溪流又ハ凹處ハ其末迤曲スルヲ以テ爰ニ設クルノ藩籬モ地面ノ水ヲ下低ニ向テ流レシムル為メ其溪流又ハ凹處ノ迂回ニ從ハサル可ラス凹處ニ在テ迂回セル藩籬ハ直線ノモノヨリモ居常此處ニ集合ノ力ヲ以テ吹来ル風ノ保庇トナルト更ニ大ナリ第三千三百一章 田野ノ形状ハ天然人工ヲ問ハス避ク可ラサル障礙物ニ由テ多クハ定ルモノナリ迂回セル河流又ハ峯谷ニ沿フ處ハ藩籬モ參差ノ線ヲナシ且境界籬ハ自然ニ「バット」ヲ生スルノ方向ヲナシ又第三邊ハ舊墟址、樹木又ハ嶺崖ニ隣スルアリ若シ障礙物ノア



ラサル處ニ於テハ其田野ノ隅角ヲ正角ナラシムヘシ  
 何トナレハ之ヲ耕鋤スルニ方形ナル隅ハ鈍角銳角ノ  
 交互スルモノヨリモ犁鋤迄ク違スルヲ得レハナリ加  
 之勞力ヲ大ニ節儉スルニハ方形ニ若クモノナシ何ト  
 ナレハ壟場短クシテ屢々回轉ヲナス片ハ時間ヲ費ス  
 1多ク又壟場非常ニ長キ片ハ馬ノ氣力ニ過キ之ヲ疲  
 勞セシム故ニ各方向ニ於テ田野ヲ耕鋤スルニ當リ最  
 モ省力ヲ保スルニハ馬ノ氣力ヲ以テ壟場ノ大極ノ長  
 サトナスヘシ且又其長サハ土壤ノ種類及ヒ状態ニ依  
 ルヘシ之ヲ要スルニ馬ハ耕種牧草地土壤ノ最モ強  
 硬ノ状態ナリ  
 ニ於テ二百五十ヤルドノ長サニ犁ヲ運用スルモ休憩

ヲ要セス既ニ耕鋤セル地ハ草地ヨリモ更ニ運用シ易  
 ク脆輕土ノ三百ヤルドハ強硬土ノ二百五十ヤルドニ  
 均シク耕鋤容易ナリ故ニ二百七十五ヤルドヲ以テ適  
 中トス而シテ草地ヨリモ粗鬆ナル土地ヲ耕鋤スルニ  
 ハ二百八十五ヤルドヲ以テ粗土又ハ輕土ニ作ルヘキ  
 壟場適中ノ長サトナスヲ得レドモ埴土ハ犁ノ運用稍  
 ク重ク二百六十五ヤルドヲ以テ充分トス故ニ二百七  
 十五ヤルドヲ以テ諸土共ニ壟場適中ノ長サトナスヘ  
 シ未タ此長サヲ實驗セシモノアラサレトモ方形ハ耕  
 埴農ニ於テ採用サレタリト看ユ蓋シ其地廣カラサル  
 ヲ以テ各種作物ノ地區モ大ナラス埴土ニ於テ二百六



十五「ヤルド」ヲ馬ノ勢力ニ適スル壛ノ長サトスレハ各  
 地區ハ殆十四「エ」クル半平方トナル而シテ農場ノ大  
 別ヲナス為メ耕種輪轉中ノ作物ノ數ニ應シ地區ヲ並  
 列ス然レ氏墳壤ニ於テ二百八十五「ヤルド」平方ノ田野  
 ハ僅ニ殆ト十六「エ」クルト四分三トナルヲ以テ畜類  
 ヲ飼育スルニハ小ナリ正角ノ平行方形ナル二十五「エ  
 」クルノ田野ニシテ壛場南北ノ方向ヲナシ長サ二百  
 八十五「ヤルド」ナルモノハ其田野ノ幅四百二十四「ヤル  
 ド」半ニ及ブヘシ  
 第三千三百二章 二田野ノ中間ニアル溪流又ハ凹處  
 ハ兩側ニ於テ不整ノ「バット」ヲ生ス故ニ各田野ニ沿フテ

平行ノ藩籬ヲ設ケ兩田野壛場ノ平行形ヲ保ッベシ但シ  
 不整ノ部ハ籬外トナシ樹木ヲ植ウルナリ  
 第三千三百三章 短キ壛場ヲ耕耨スルニ大ニ時間ノ  
 損失アルヲ示ス為メ予ハ各異ノ状態ナル土地ニ於テ  
 ロキスブルグシールナルウヰツテリグノヘイ氏予ノ為  
 メニ行フタル試験ノ結果ヲ左ニ舉グ其壛場ハ幅十五  
 尺ナリシ

十月無作物休閑地ノ為メ遺科ノ耕耨

「ヤルド」ニテ壛場ノ長サ	一壛場ヲ耕耨スルニ要スル時間	「エ」クルヲ耕耨スルニ要スル時間	準位ト比較シ「エ」クルニ付時間ノ損失
三一九	時 分 二四〇	時 分 八〇	時 分 準位



二九。	二八。	一三九	一。二	四五	三七	七八	六六	一月無作物休閒地ノ為メ第二回ノ耕耨	二八。	一七二
二。三。	二。二五	一。一五	一。	。三。	。二五	一。	。五。	一月無作物休閒地ノ為メ第二回ノ耕耨	二。二。	一。三。
八。二。半	八。二。一	八。四。五	九。三。	一。四。五	一。五。四	一。二。四	一。二。一。三	一月無作物休閒地ノ為メ第二回ノ耕耨	八。四	八。二。六。半
。二。半	。二。一	。四。五	一。三。	二。四。五	二。五。四	四。四	四。一。三	一月無作物休閒地ノ為メ第二回ノ耕耨	準位	。二。二。半

一。。	一一二	八六	一三七	一八二	三七	四月蕪菁跡ノ初回ノ耕耨	一。。	。五。五	八。五。二。半	。四。八。半
。五。五	一。五	。五。	一。二。	一。四。八	。二。五	四月蕪菁跡ノ初回ノ耕耨	一。五。四	九。二。二	九。二。三	一。一。八
九。五。二。半	九。二。二	九。二。三	九。二。五	九。三。四。半	一。五。四	四月蕪菁跡ノ初回ノ耕耨	一。三。半	一。一。九	一。二。一	一。一。一
。四。八。半	一。一。八	一。一。九	一。二。一	一。三。半	二。五。	四月蕪菁跡ノ初回ノ耕耨	準位	一。一。一	一。二。一	一。一。一

二九二	二八。	二。三	一。一	二。三。	二。二五	八。一。七	準位	。四	一。一。五	一。四。六
二。三。	二。二五	二。	一。五	八。一。七	八。二。一	八。一。七	準位	。四	一。一。五	一。四。六
準位	。四	一。一。五	一。四。六	八。一。七	八。二。一	八。一。七	準位	。四	一。一。五	一。四。六



一四一	一三〇	一〇一八	二一
-----	-----	------	----

第三千三百四章 是ニ由テ見レハ一般ニ短キ壑場ハ之ヲ耕耨スルニ長キ壑場ヨリモ更ニ久シキ時間ヲ費ス但シ其結果中上文ノ理ニ齟齬スル所アリ即チ第一例ニ於テ「エー」クルノ地ヲ耕耨スルニ七十八「ヤルド」及ヒ六十六「ヤルド」ハ四十五「ヤルド」及ヒ三十七「ヤルド」ヨリ久シキ時間ヲ要スルコト一時十九分時ナリ第二例ニ於テ百八十二「ヤルド」ハ八十六「ヤルド」ヨリ久シキ時間ヲ要スル「十一」分時半ナリ又第三例ニ於テ百四十一「ヤルド」ハ百一「ヤルド」ヨリ久シキ時間ヲ要スル「十五」分時ナリ此齟齬ハ恐クハ短壑場ノ傾斜硬柔ノ如

キ地位或ハ状態ニ関シ長壑場ヨリモ更ニ耕耨ニ便ナリシカ或ハ犁夫壑場ノ端ニ至リテ馬ヲ回轉スルニ長壑場ヨリモ少時ヲ以テセシニ依ルナラン其如何ヲ論セス短壑場ハ長壑場ヨリモ耕耨ニ久シキ時間ヲ要スルハ各農者ノ能ク知ル處ナリ長壑場ヲ耕耨スルニ當リ上文齟齬ノ例トシテバムフェルストンノマックレガン氏予ノ為メニ行フタル試験ヲ示ス左ノ如シ曰ク五百七十「ヤルド」ノ壑場ニテハ「エー」クルヲ耕耨スルニ僅ニ七時四十分時ヲ費セシモ四百二十「ヤルド」ハ八時ニ十四分時二百五十「ヤルド」ハ九時三十六分時ヲ要セリ蓋シ土地ヲ耕耨スルニハ壑場ノ深淺土壤ノ粗密馬ノ



勢力及ヒ回轉等ニ與ヘタル時間ヲ悉ク酌量セサル可  
ラス

第三千三百五章 農場ヲ經過スル街道又ハ運河アレ  
ハ其兩側ニ於テ藩籬ヲ要ス鐵道ハ其線路ニ沿フテ藩  
籬ヲ設ク又墻圍セントスル土地ノ中央ニ古木ノ樹林  
石坑又ハ建物アレハ「バット」ヲ此等ノ障礙物ニ接近セシ  
ムヘシ農場ヲ經過スルノ街道兩側ノ田野ニ通路ヲ與  
フルモノハ大ニ便利トナリ數多農路ノ築造ヲ省ク總  
シテ田野ニ通行ノ容易ナルハ馬ノ健全及ヒ勢力ヲ保  
持シ且冬月運車及ヒ馬具ノ損傷ヲ減スヘシ

第三千三百六章 田野ノ廣サハ大ニ農業ノ種類ニ關

スルモノナレトモ大小共ニ勞力ノ節儉ニ由テ限度ア  
リ馬ノ使役ヲ要スル最小ノ農場ニ於ケルモ十「エー」ク  
ルノ田野ハ小ニシテ勞力ヲ便益ニ使用スル能ハサル  
ヘシ田野ヲ十「エー」クル以下トナスノ大農場アレハ小  
地區ヲ墻圍スルヲ以テ眼界狹窄ナリ且穀作ニモ必ス  
害アルヘシ又五十乃至百「エー」クルナル過大ノ田野ハ  
數多ノ拖馬ヲ用フルモ工事ヲ成就スルニ久シキ時日  
ヲ要ス予ハ多クノ農場ノ大小ニ從ヒ二十五乃至三十  
五「エー」クルノ田野ヲ充分大ナリトス蓋シ田野ノ大小  
ニ精細ノ定度ヲ附シ得サルモ唯ニ十「エー」クル以下ノ  
田野ハ馬ヲ使役スルニハ小ニシテ四十「エー」クル以上



ハ一地ニ於テ工事ヲ速ニ成就スルニハ大ニ過クルト  
 ナスノミナリ五百「エーケル」ナル混同農ノ農場ハ五作  
 物輪轉ノ各區ニ二十五「エーケル」ノ四田野ヲ與ヘ即チ  
 一區百「エーケル」トナル而シテ二十五「エーケル」ナル適  
 中ノ田野ニ於テ青菜及ヒ牧草ノ如キ同シ作物ヲ農場  
 中各異ノ部且各異ノ土壤ニ耕種スルヲ以テ季候不順  
 ナルモ數田野中ノ一ニ於テ必ス豊成ヲ期スルヲ得ル  
 且農場ノ全業ヲ一時ニ一ノ適中ナル田野ニ限ルヲ以  
 テ天氣或ハ大ニ變動ヲ生スルコトアルモ農者ハ土地  
 ヲ耕耨スルニ充分ノ時ヲ得又作物ヲ播種シ及ヒ之ヲ  
 刈收スル安全ノ時ヲ得ルヲ難キニアラス其他各種ノ

農事ニ於テモ田野ノ大小ニ付同一ノ理ヲ活用シ得ヘ  
 シ

第三千三百七章 田野ノ位置モ亦緊要ノ件ナリ若シ  
 堰場南北ノ方向ナルキハ二百七十五「ヤルド」ヲ以テ堰  
 場ニ充分ノ長サトシ二十五「エーケル」ヲ以テ田野最上ト  
 サトス而シテ農場長方形ナレハ田野ヲ南北ニ短ク東  
 西ニ長クスヘシ若レ之ニ及スル方向ヲ以テセハ南北  
 ノ堰場四百二十五「ヤルド」ノ長サトナリ馬ノ勢力ニ堪  
 ヘサルヘシ

第三千三百八章 田野ノ員數ハ一部ハ農場ノ大サニ  
 關シ一部ハ耕種輪轉法ニ關スルモノナリ專ラ小麥ヲ



耕作スル純埴土ナル農場ノ内部ハ耕種輪轉中作物ノ  
 數ヨリモ多分ニ區分スヘカラス畜類ヲ飼養セサル處  
 ニ在テ埴土ノ農場ヲ小區分スルハ藩籬ノ為メニ良土  
 ヲ妄用スルナリ百二十五エークルヨリ少ニシテ墳土  
 ノ農場ニ於テ作業ノ費ヲ省キ及ヒ藩籬ニテ土地ヲ妄  
 用スルヲ防ク為メ田野ノ數ヲ輪轉ノ作物ト同一ナラ  
 シメ牧草又ハ青菜ヲ要スルノ量一田野ヨリモ小ナレ  
 ハ假籬ヲ以テ一時之ヲ墻圍スヘシ土地ノ構成各異ア  
 ル廣大ノ農場ニ於テハ右ノ所説ヨリモ異ナル事情ニ  
 由テ田野ノ數ヲ定ムヘシ多ク畜類ヲ飼養スル農場ヲ  
 墻圍スルニ當リ各田野ニ作業ノ節減ハ畜類ノ健全ニ

於ケル如ク緊要ナラス都テ畜類ハ新鮮ノ牧地ニ於テ  
 同種ヲ小群ニ牧飼スレハ發達宜キヲ得ルカ故ニ夏季  
 牛ヲ牧草ニ就カシメ冬季蕪菁ニテ羊ヲ飼養スルニ各  
 墻圍ノ地ヲ大ナラシム可ラス例ヘハ今一墻圍ノ地ヲ  
 二十五エークルトナシ五歲輪轉法ニ於テ各作物ニ二  
 墻圍ノ地ヲ以テスレハ農場二百五十エークルトナル  
 之レ混同農ノ實施シ得ヘキ最少ノモノナリ又輪轉ノ  
 各作物ニ四墻圍ノ地ヲ以テスレハ農場ハ五百エーク  
 ルトナリ六墻圍ノ地ヲ以テスレハ七百五十エークル  
 トナル之レ多クノ農者ノ有スル資本ニ應シ最大ノ耕  
 地ナリ



第三千三百九章 絶エス耕種スル小地區ハ穀作ノ為  
 メニ害アルモ畜類ヲ飼養スル農場ニ在テハ畜屋ノ近  
 傍ニ於テ「エー」ク此乃至五「エー」ク此ナル牧草ノ小地  
 區二三ヲ欠クヘカラストナス此草地ニハ交尾終リタ  
 ル牡羊、母乳ヲ離シタル犢牛、児ヲ産ミタル牝羊ヲ放テ  
 又ハ二三週日ノ間牝馬及ヒ兒馬ヲ放テ或ハ牡馬ヲ飼  
 ヒ或ハ病畜及ヒ病愈ノ畜ヲ放ツノ處トス而シテ斯ク  
 小ナル草地ハ大ナル田野ヨリモ更ニ有益ナリ  
 第三千三百十章 畜類飼養ノ農場ヲ墻圍スルニハ決  
 シテ良水ノ供給ヲ忽ニスヘカラス之レ世人ノ往々輕  
 視スル處ナリ若シ其近傍ニ溪流アラサレハ井ヲ掘リ

或ハ水管ヲ埋メ或ハ水道ヲ設ケテ源泉ノ水ヲ得ヘシ  
 最良ノ牧地モ良水ニ乏シキ片ハ畜類ノ發達ヲ得ス而  
 シテ水ノ供給潤澤ナラサレハ牧者モ牛馬ノ為メニ其  
 牧地ヲ借ラス但シ群羊ノ為メニハ然ルナシ  
 第三千三百十一章 專ラ畜類ノ用ニ供スル山丘牧地  
 ハ牛羊共ニ多數ニ飼養スルヲ以テ墻圍ノ地區ヲ大ナ  
 ラシメサル可ラス蓋シ山地ノ畜類ハ活潑ニシテ食餌  
 ヲ捜求スルノ性情強ク且山地ノ牧草ハ稍々稀疎ナル  
 ヲ以テ畜類ノ嗜欲ヲ満足セシムル為メ廣地ヲ要ス  
 第三千三百十二章 田野ヲ狹ク墻圍スルノ弊害ニ由  
 テ悉ク墻圍ヲ不可トナスノ説アリ而シテ墻圍セル田



野ニ耕種ノ作物ハ空豁ノ原野ヨリモ損害ヲ蒙ムルト  
 大ナリト確論ス此論ヤ實ニ是ナリ然レ氏之レ全ク墻  
 園ヲ設クルノ理ヲ駁スルヨリモ實際ニ於テ其濫用ヲ  
 責ムルナリ墻園セル田野ハ其大小如何ヲ問ハス畜類  
 ヲ飼養スル牧地ニハ常ニ墻園ヲ設ケサル可ラス而シ  
 テ其内保庇ノ為メ小舎ヲ設クレハ大ニ蠅害ヲ避クル  
 ナリ加之保庇アル田野ハ空豁ノモノヨリモ其穀作ヲ  
 成熟セシムルト早シ必竟墻内温熱ノ促進力ニ根抵ス  
 然レ氏原野ニ比スレハ大ニ穀粒ノ品質ヲ害ス此顯著  
 ナル事實ニ由テ墻園セル田野ハ其内ニ籠レル温熱ノ  
 為メ大ナル蒸發ヲ起シ從テ夜間温度ヲ非常ニ低下ナ

ナラシムト云フ説アレトモ全ク理論上ノ推測ヲ免カ  
 レス何トナレハ範圍内ヨリモ風ニ冒露スル處ハ更ニ  
 蒸發ヲ速カナラシムレハナリ  
 第三十三百十三章○土地ヲ墻園スル目的ノ一ハ其樹  
 林、穀作、野菜、及ヒ牧草又飼養ノ獸畜ヲ擁護シ以テ人類  
 ノ妨害ヲ防クニアリ夫レ墻園ノ用ハ人智漸ク開ケ土  
 地ノ耕作大ニ進歩セシ後作物上ノ妨害ヲ實視シ之ヲ  
 防クカ為メニ始メテ發明セシモノニシテ未開草昧ノ  
 世牧畜ヲ業トセシ人類群ヲナシ水草ヲ逐フテ遊牧シ  
 其群羊群畜ノ為メ牧草ヲ得ルノ間ノミ一處ニ滞在セ  
 シ時ニ在テハ人民日夜住處ノ周邊ニ在テ其畜類ヲ看



守セリ而シテ牧草潤澤ナルノ處ニハ便宜ノ地ニ居ヲ  
占メ墻圍ヲ築造シテ欄トナシ夜間畜類ヲ閉止スルノ  
處トナセリ其墻圍ハ夜間牧者ノ看守ヲ免カレシムル  
ト且畜類ニ猛獸ノ害ヲ擁護スルトノ兩効ヲ兼ネタリ  
其住處ニ最近ノ地ヲ初テ耕種セリ然ルモ晝間ハ畜類  
ヲ看守シ夜間ハ欄内ニ閉止セシ時ノ間ハ穀作ヲ擁護  
スル為メニ墻圍ヲ設ケシトナカリシ然レモ漸ク交社  
ヲ組成スルニ至リ耕地次第ニ増加シ牧地ヲ侵蝕シテ  
為メニ牧草ヲ減少ナラシメタルニ由リ畜類ハ食餌ノ  
乏キヲ覺エ牧者ハ土地ヲ耕作スルヲ以テ畜類ヲ看守  
スルノ違ナク故ニ牧場ニ隣セル耕地ニハ畜類ノ濫入

シテ之ヲ喰フヲ防ク為メニ墻籬ヲ要スルニ至レリ之  
レ耕地ヲ墻圍スルノ根原ナリ是ニ由テ見レハ往日内  
野外野ノ名ヲ以テ分チシ一種特別ノ墻圍法ヲ知ルニ  
足レリ此法ハ近年マテ英國ニ於テ行ハレ尚ホ歐羅巴  
本地ニ於テハ現ニ實視スルヲ得ル專ラ畜類ノ牧地ニ  
供スル遠隔ノ部ヲ外野ト名ケ耕者其家屬及ヒ從者ノ  
為メ穀物野菜ヲ耕作シ又冬季畜類ヲ飼養スル畜舎ヲ  
設クル接近ノ地ヲ内野ト名ク耕種ハ決シテ外野ニ於  
テセシトナク又畜類ヲ内野ニ入レシメス之ニ由テ牧  
者ト農者トノ業務ニ於テ顯シキ分界線ヲ畫スルニ至  
レリ當時畜類ノ飼養ト穀物ノ耕種トノ間ニ斯ク濶大



ナル分界ヲ設ケシヲ以テ耕者ハ久シク畜類ノ土壤ヲ肥沃ナラシムル簡易ノ方便ヲ與フルヲ看破シ能ハサリシ又之ヲ知ラサリシ間ハ耕者ハ畜類ノ食餌ヲ耕地ニ於テ作り得ルヲ思ハサリシ况ヤ人類ノ食料ト結合スルキハ最モ節儉ニ之ヲ作り得ルニ於テヲヤ而シテ牧草ハ土壤ヲ改良スルノ効力ヲ有スルヲ以テ其跡ニ穀物ヲ作レハ更ニ豊成ヲ致シ又時々穀物ヲ作りシ草地ハ畜類ヲ保持スル丁更ニ多ク又畜類ノ排泄物ハ人エヲ以テスルヨリモ能ク土地ヲ肥培スルヲ發見スルニ至リテ外野内野ノ制全ク廢止トナレリ此時代マテハ獸畜ノ糞ハ日ニ乾シテ薪料トナセリ是ニ至リ

唯ニ耕地ノミヲ墻圍セシ籬ヲ毀テ領地ノ境界ニ移シ其代リニ順次耕種スル作物ニ適應ノ墻圍ヲ築造セリ往古ノ國民多クハ此類ノ墻圍ヲ其領地ノ境界ニ築ケリ埃及中殊ニ其下部ハ往昔ヨリ曾テ牧畜ノ國ニアラサルヲ知ル何トナレハ年々ナイル河ノ濫溢ニ由テ土壤ヲ非常ニ肥沃ナラシムルヨリシテ人民初メヨリ農業ニ着眼セシナルヘシ故ニ經典ノ創世記ニ耶蘇紀元前二千年ノ頃アブラハムハ群羊群畜ヲ飼養シ其他金銀ニ富ミタル自國ノ凶歳ニ際シ埃及ニ移住セシヲ記スルヲ見ル而シテナイル河ノ天然ニ流溢セサル處ニハ數多ノ溝渠ヲ穿チテ其水ヲ導キ田野ニ灌ケリ又



墻圍ニ就キ希臘人モ上文論セシ所ト一般ノ景況ナリ  
 シ土地ノ境界及ヒ分界標ニ關スル法例ニ由テ考フレ  
 ハ範籬ハ唯ニ方今ノ境籬ノ如ク領地ノ境界ニ於テ設  
 ケレノミナリ羅馬人ハ其家畜ヲ閉塞スル為メ範圍ヲ  
 設ケレトナシ然ルモ園圃菓樹園草地ノ周圍又ハ野獸  
 ヲ閉塞スル為メ遊獵場ノ周圍ニ樹籬ヲ植栽セリ其他  
 ニ於テ羅馬人ノ土地ハ希臘人ノ如ク農場ノ境界ニ境  
 籬ヲ設ケテ墻圍ス此墻ヲ造ルニ各種ノ物料ヲ使用セ  
 リ

第三千三百十四章○歐羅巴輓近ノ國民多クハ尚ホ往  
 昔ノ方法ニ由テ其土地ヲ墻圍ス佛蘭西ニ於テハ長子

相續特權法ノ廢絶以來土地ノ所有漸次小分シ殊ニ東  
 部半國ニ於テ田野ノ墻圍ヲ見ズ唯二三ノ界標石或ハ  
 彼此ノ處ニ標木ヲ建テ或ハ溝渠ヲ穿テ或ハ並木ヲ植  
 エ小領地ノ境界ヲ畫スルノミ日耳曼波希米亞瑞西及  
 ヒ西班牙ニ於テハ農舍及ヒ村落ノ近傍ニ墻圍ヲ見ル  
 ノミニシテ穀作ノ地ハ廣大且無墻ナリ予曾テ波希米  
 亞ニ於テ眼界内一ノ藩籬ナキ小麥ノ地ヲ見タリ論ハ  
 爾地ニ於テハ土地灌溉ノ水ヲ通スル溝渠ヲ以テ墻圍  
 トナス和蘭及ヒ比耳義ニ於テハ樹木及ヒ生籬ヲ以テ  
 墻圍シ田野ノ半面之レカ為メニ遮蔽セラル、處多シ  
 英倫ツ南西部ニ於テモ殆ト同一ニシテ貴重ノ土地ヲ



美麗ニ繁茂シ且過長ナル生籬ニテ占ムル處多シ英倫勸農會社ノ雜報ニ曰クエキセトルノジヨングラント氏ノ測定ニ依レハデウアンシール一州ノ藩籬ニテモ全英倫ヲ繞圍スルニ足レリ其長サハ千六百五十一里ニシテ僅ニ三万六千九百七十六エーカーノ地ヲ小區分スルナリト該州内生籬ノ塚ハ之ヲ一線ニ延長スレハ倫敦ヨリ依陣堡ニ達スヘシ愛爾蘭中殊ニウルストル郡中ノ土地ハ片草土ノ堤ニテ小區分ヲナスモ概シテ畜類ヲ閉塞スルニ適スルノ形状ナラス蓋シ農業改進ノ形状ニ相應セル墻圍ヲ見ルハ僅ニ英倫ノ北部ト蘇格蘭内最モ稼穡ニカヲ盡スノ地方ニ限ル此ニ於テ農

場ハ悉ク充分ニ墻圍ヲ設クルノミナラス其墻圍ノ大小モ土壤ノ性質ニ從ヒ各適當ノ割合ヲ以テス而シテ耕種ノ諸作物ハ天氣變動ノ保庇ヲ得且獸畜ノ害ヲ防キ又畜類ハ閉塞セラレ、ヲ以テ安慰ヲ享受シ且充分ノ食餌ヲ得ルナリ

第三千三百十五章○又土地ヲ墻圍スル他ノ目的ハ天氣ノ變動ニ際シ植物及ヒ動物ニ保庇ヲ與フルニアリ  
範籬ノ保庇トナルハ世人ノ能ク認識スル處ナリ墻壁ニテ圍繞セル園圃ノ温暖ナルヲ見ヨ其墻壁頽廢セルモ其外邊大風ノ凜々タルニ比スレハ實ニ平穩ナラスヤ早春生籬ノ南方ニ於テ發芽ノ嫩草ヲ其北部ノ草ニ



比スレハ發達如何ソヤ又屋内ニアリ戶外風聲ノ颯々  
 ヲ聞クニ其低キヲ覺ユルハ如何此等保庇ノ例ハ顯著  
 視易キ處ナルモ唯一小事ニ過キス更ニ之ヲ廣ク論ス  
 レハ森林ノ中部ニ位セル屋舎ハ何ノ方向ヨリ吹來ル  
 風モ皆安靜ナリ又山丘ノ下風ニ接近スル農屋ハ安全  
 トス四面丘陵ヲ以テ繞レル農場ハ風害少シ都テ保庇  
 ノ大小ヲ問ハス其受ル處ノ便益ハ著シキモノナリ茲  
 ニ東老是安ノウエミイス公所有ノゴズフォルドナル領  
 地ニ於テ一牧地ニ低キ墻壁ヲ設ケ凜烈タル海風ヲ保  
 庇セシ一例ヲ舉ンニ之ヲ言語ニ説示センヨリモ第四  
 百五十四圖ヲ一目スレハ自ラ瞭然タリ其壁及ヒ壁後

第四百五十四圖  
 烈風ヲ保庇スル低墻



ニ直接スル樹  
 木ハ同一ノ高  
 サナルモ内方  
 ニ數尺ヲ隔ツ  
 レハ樹頭漸ク  
 高シ之唯ニ壁  
 背ノ冠石ヲ同

脚ノ三角形トナシタル方略ニ根スルモノニシテ斯ク  
 三角形ナル面ヲ打撃スルノ風ハ同角度ニテ空中ニ反  
 射セラル若シ壁背冠石ノ形狀平面ナレハ風ハ地平ノ  
 方向ニ樹頭ヲ截除スヘシ或ハ樹木アラサルモ冠石ノ



形状ヲ斯ノ如クナスルハ風ヲ上際ニ反射シテ地ニ達セサル前ニ其運動力ヲ大ニ減少セシメテ最良ノ保庇トナルヘシ斯ノ如キ墻壁及ヒ一帯ノ樹林又ハ墻壁アラサルモ山崖或ハ高丘ノ頂ニ接近シテ樹林ヲ長ク設ルキハ其國ノ強風ヲ大ニ庇陰スヘシ而シテ國內ヲ横過シ處々ニ至當ノ地位ヲ撰ミ斯ノ如キ墻障ノ線ヲ設クレハ一地方ノ氣候ノミナラス全國一般ノ氣候ヲモ大ニ温和ナラシムヘシ蓋シ保庇ノ能ク畜類及ヒ作物ニ與フルノ利益ヲ証センニハ其例少カラズ但シ土地ヲ改良スルニ樹林ノ與フル利益ハ石墻ヨリモ更ニ廣且至要ナリトーマス、ビシヨ、フ氏曰ク千七百九十三年

ニ於テペルツシールナルメセ、ウエンノ共有原野ノ分割前ニ有名ノロルド、レ子ドヂ及ヒロルド、メセウエンノ兩公其領地ノ該原野ニ隣セル低キ坂地ニ一帯ノ樹林ヲ設ケ以テ之ヲ安全ナラシメタリ予其翌年ヨリメセウエン公ニ備ハレ千七百九十八年ニ原野ノ高地殆ト六十エークルヲ一エークルニ付ニシリンノ價ニテ樹木ヲ栽工耕地ニ供ヘタル八十乃至九十エークルノ地ヲ保庇シ三區ニ分割シテ六名ノ佃戸ニ貸與セリ初メ十五年間ハ土地改良ノ進歩弛徐ナリシモ爾後樹木ノ生長ニ由テ一層ノ保庇トナリ改良更ニ速ニシテ方今ハ全ク良地トナリ年々燕麥、大麥、豌豆、馬鈴薯及ヒ燕菁ヲ耕



種ス千八百三十八年ノ春即チ右樹林植附ノ時ヨリ正  
 二四十年ニシテ予ハ落葉松及ヒ樅四「エークル」ヲ二百  
 二十磅ニ賣却シタリ之ニ留存木ノ價及ヒ前年ヨリ賣  
 却セシ疎伐材一「エークル」ニ付平均ノ價ヲ合計スレハ  
 一「エークル」ニ付六十七磅ノ收益トナレリト又農事雜  
 載ニ曰ク「レヨットレイ、ブリッヂノバル子」ト氏ニウカスト  
 ルオホン、テインノ西方十六里ニ在ル「レヨットレイ、エ  
 ノ頂頭ニ高キ石牆ヲ以テ四百「エークル」ノ原野ヲ圍繞  
 シ土壤ノ能量ニ容易ナル作物ヲ耕種セリ斯ノ如ク  
 テ土地ヲ衰弱セシメサリシモ元來土壤ノ貧瘠ナルヲ  
 以テ畜類ノ發達充分ナラス故ニ一「エークル」ノ地ヲ六

「ペン」スヨリ上ニ借ルモノナシ然レモ各田野ヲ樹木ニ  
 テ墻圍セシ後ハ驚クヘキ改良ヲ致セリ雞足草三四尺  
 ニ生長シ幼牛ヲ飼養セシニ其發達以前ニ四倍セリ夫  
 レ樹木ノ植栽ハ保庇トナルノ外ニ土地ノ眺望風光ヲ  
 好良ナラシムマッキンジイ氏曰クロス「レールナル」ミ  
 ルトンノ樹林ハ既ニ千八百三十六年ニ於テ其周邊ニ  
 アル地方ノ氣候ヲ改良シ且保庇温暖ヲ與ヘ當今ニ至  
 リ更ニ著シ其樹林ハ人目ヲ悦ハシメ風色ヲ快爽明媚  
 ナラレムル既ニ久シ往日「レイルトン」ハ空漠タル荒野  
 ニシテ之ニ相對セル「アラハン」及ヒ「コウル」ナル領地ノ  
 栽培ヲ盡セル樹林ヲ見テ行旅ノ愉快トナセシ比



スレハ其懸隔如何ソヤ今ハ右兩地ト其肥沃美觀ヲ競  
フニ至レリミユイルトンノ山丘ハ牧地トナシ「エー  
ルニ付六」ベンスノ價モナカリシモ少額ノ費ヲ以テ樹  
木ヲ栽植スレハ其地ハビウリー及ヒヂングウォールナ  
ル舶載ノ地ヨリ八里ヲ距ルモ其日ヨリ一ケ年「エー  
クルニ付十」シリシ乃至二十「シリ」ノ佃租ヲ得ルニ至  
ル「疑」ナシ但シ木材ノ價ノ外ニ其墻圍ハ冬季群羊ニ  
貴重ノ庇蔭トナルト

第三千三百十六章○全王國內ノ山丘地方ハ甚タ墻圍  
ニ乏シク山地ノ農場多クハ境籬タモアラス其界標ハ  
唯丘陵ノ分水界線溪流狹路或ハ石塚ノ如キ天然ノ障

礙物ヲ以テ示スノミ然ルモ地勢高岡ノ上ニアルヲ以  
テ此農場ニ要スル保庇ハ單一ナル籬ヲ設クル如キ  
ニアラス山丘地方ノ保庇ハ其規模ヲ宏大ニシテ全國  
一般ノ公益トナスカ如クニ之ヲ設置スルニアラサレ  
ハ到底成就シ能ハサルヘシ今一小有地ニ於テ之ヲ設  
クルキハ其左右兩側ノ有地ニ便益ヲ與フルト同一ナ  
レハ大ナル領地ノ持主ハ悉ク之ヲ墻圍スルノ費ヲ自  
ラ支辨スルモノアラシヤ是故ニ山丘地方ノ地主互ニ  
協議シテ之ヲ起サン「ト」ヲ期望ス然ルキハ少費ヲ以テ  
國內大部ヲ保庇スルノ効驗アルヘキ計策ヲ施行シ得  
ヘシ蓋此地ノ強風ヲ能ク知り且風行ヲ停止スルニ足



ル藩籬ノ線ヲ測定シ得ヘキ工師ヲシテ亞爾邊山麓地  
方ノ体裁ニ大測量ヲ行ハシムレハ費用ノ豫算ヲ得ヘ  
シ之ヲ行ハシムルニハ此國三角測量ニ從事スル工師  
ノ外ニ能ク適應スルモノアラサルヘシ

長川新吾校

斯氏農書卷之五十五 終



